

第四編 建設基地論

第四編 土地政策論

第一章 統合國土建設計劃ノ概観

一、目的

國土計画ハ一般ニ都市計画ヨリ地方計画ヲ通ジテ發展シテ來タモノトシテ、計  
画理論ヨリテ計画技法の林相ヲ多分ニ持ツアキルトコロニ國土計画ガ土地計画  
的ナ或ヒハ土地設計的ナ技法デアルト主張サレル所以ガアル。

即チ「一國ノ國土ヲ最も合理的ニ、經濟的ニ利用シ土地ト天然物トノ學生的  
價値ヲ最大限度ニマデ高揚シヨウトスル國土利用ノ面細識計画」デアルトシテ  
其レハトコマデモ土地ニ密着シテ土地利用ノ計画技法デアロシトシ、土地ノ經  
濟的價値ノ發揮ニ最大限目ガ置カレテサレ、勿論土地ノ開發、資源利用ノ多少  
工業生産力ノ大小等ハ一國々カヲ決定スル重要ナ經濟因子ヲナスモノデアルガ  
其ノ外ニ民族ノ向題アリ政治ノ向題アリ文化ノ向題等ガアル。其等ハ空向ヲ土  
地ヲ國土ヲ離レテ存在シナイト同時ニ、歴史ヲハナレテハ成立シナイ。國土計

画が真ニ国力ヲ最強ニ發揮サセルベク、土地ヲ如何ニ考へ如何ニ編成シ、如何ニ建設スルカヲ目標トスルナラバ、国土計画ハ經濟的觀点カラノミナラズ政治的或ヒハ文化的の全テヲ包含シタ土地ニ對スル国土計画<sup>建設</sup>デナケレバナライ、即チ、「国土計画ハ土地ヲ合理的ニ開發利用シ、以テ土地ノ有スル自然的、社会的價値ヲ有効ニ發揮セシメル為メノ綜合的國家計画デアアル」コト勿論デナケレバナラズ、或ヒハ之ヲ現實的ニ言ハバ、「一定ノ計画下ニ日本帝國全体ノアラユル体制ト組織トガ地域的ニ階層的ニ、合理化サレタ賤ニハ、政治ニ演ミナク、法律ニ無理ガナク、經濟ニ冗費ガナク、官衙ニ老朽若朽ガナク、野ニ遺賢ナク又人口ノ疏密ニモ完全合理性ガ与ヘラレテ、日本全土ニ生ヲ聚シム一僥同胞ガ内ニハ其ノ稼業ヲ樂シミツ、外デハ後進國滿洲ヲ愛弟トシ、支那四億人民ヲ西隣ノ友人トシテ相提携シ、此ノ西隣ニ固ノ經濟ト其ノ文化ガ日本内地ノ經濟ト又化ニ密接シ、交流シ來ツテ、次代ノ日本ガ建設サレネバナラヌト言フ大前提ノ下ニ考察セラル、其ノ事ガ謂フ所ノ国土計画アレバナラヌト充分考ヘラレテ然ルベキデアアル。

然シ、我々ノ考ヘル綜合國土建設計画ハ夫ンテ其ノ極ナ狭イ地域デモ莫然ト

シタモノデアソアモナラヌ。我々ハ世界建設戰のナ概矣ヨリ、大東亞ヲシテ世界ニ對シ絶體優位優勢ト存在トスゞク、ソノ全生活空間ヲ此ノ目的ノ為ニハ如何ニスレバ政治的ニ經濟的ニ文化的ニ或ハ民族的ニ最モ能率的ニ編成組織建設シ得ルカヲ考ヘルノデアアル、此ノ地域ヲ政治的ニ世界最強最高ノモノタラシムルキ政治者国土計画ガ為サレネバナラヌ。又化的ニ最大最高ノモノタラシムルキ文化者国土計画ガ必要デアアル。民族的ニ大東亞ヲ世界最大最強最高ノ鞏固トシテ發展セシムルキ民族者国土計画ガナサレネバナラヌ。經濟的ニモ勿論之ヲ最大最強最高ノ存在タラシムルキ經濟者国土計画ガ確立サレネバナラヌ。

而シテ、此等ノ政治・文化・民族・經濟的国土計画ガ、凡ユル概矣ニ於テ大東亞ガ世界最高最強最大ノ存在トシテ防衛的ニモ進攻的ニモ充分ナ建設戰態勢ヲ確立スルトイフ最高目標ニ何ツテ、空間處理ヲ基軸トシテ統合サレル中ツモツテ綜合國土建設計画ト稱ス。

茲ニ於テノミ、国土計画ガ諸多ノ摩擦面ヲ克服シテ一貫シタ實踐理論トナリ、實踐技術トナリ得ルデアロウ。

### 二、基地ノ概念

所テ、統合国土建設計画が軍事・政治・経済・文化・民族ノ総合的觀念ニ在  
 ナ、歴史性、或ハ歴史流ニ裏付ケラレタ土地・国土・生活空間ノ能力發揚・編成  
 ・建設計画トシテ、世界史因建設ノ最高目標・最高國策ニ綜合サレル国土建設  
 理論——建設々計デアルトシテモ、尚ホ如何ナルモノヲ基軸トシテ此ノ理論、或  
 ハ設計ヲ打ち立ラルオ。ト云フ謂ハバ其ノ中心意志又ハ指導理論ト云フモノガ  
 存在シナケレバ、此ノ建設計画ハ技術的ニ多元的相對的ナモノトナツテ、活動性  
 ノミ多ク纏マリナキモノトナリ、従ツテ強力ナ一元性ヲモツ能ハシテ統合性ヲ  
 發揮シ得ナイ。

ソコデ我々ハ此ノ指導理論或ハ中心意志タルベキモノニ「基地ノ概念」ヲ提  
 示スル。

デハ基地ノ概念トハ如何ナルモノデアルカ。地政学の泉地ヨリスル迄モナク  
 一定区域ノ支配が常一其ノ区域ニ対スル特質的ナ性格ヲ持ツ一質地區ニ依據ス  
 ルコトハ、作戦行動ニ於ケル軍事基地ノ存在ニヨツテモ明シカデアル。

而シテ此處ニ言フ「支配」トハ單ニ占領トカ奪取トカノミヲ意味スルノテハ  
 ナク、一質地域ニ於ケル敵性機能ノ減少・消滅、或ハ削奪・建設又ハ保衛・確保  
 等ノ動態的或ハ靜態的ノ進攻及ビ防衛或ハ隔和・統合等ノ全クヲ意味スルノテ  
 アリ。ソレハ單ニ政治的方面或ハ経済的方面ニ於テノミ考ヘラレルモノデアラ  
 文化的方面ニ於テモ民族的方面ニ於テモ考ヘラレルベキモノデアル。

例ハバ、軍ノ作戦ニ於テ敵ノ據拠ヲ占領シ敵性機能ヲ絶滅スルノガ戰闘ノ目  
 的デアル場合、此ノ戰闘ヲ最効果的ナシメル為ニハ軍事基地トシテ空軍基地  
 ・海軍基地・陸軍基地或ハ作戦基地・兵站基地等ヲ設ケテ初メテ戰闘ヲ有利ニ  
 導キ勝利ヲ決定ヅク得ルモノデアル事ハ、既ニ我々ノヨク知ル所デアル。

又、我民族ヲ大東亞國內ニ發展セシメツ、土着民族ト隔合同和サセマシラ  
 彼等ヲ至尊至高ノ權威ノ下ニ綜合シテ家族國家ヲ形成シテ行クニハ、第一編第  
 二章ノ「設定要件」ノ(ハ)「人口關係」ノ項ニ述ベタ如ク、或ハ特ニ氣候風土等  
 ノ良好ナ地帯ニ我民族ノ直轄的生存圏ヲ形成シテ、此知ヲ濃厚ナ堅實ナ大和民  
 族基地トスル。

此ノ基地ハ、大東亞ノ主要地帯ニ次々ニ建設サレテ大東亞全國ヲ細胞組織化

シ、單位基地ハ次々ニ綜合サレテヨリ高次ノ大基地トナリ各基地間ハ次々ニ拡大シテ行ク民族ノ交通動線トシテ生命線ヲ形成シテ之ガ確保ガ考ヘラレル。民族の観点ヨリシアハ、斯ル基地ノ設定建設ガ意圖サレル必要ガアルノデア

ル。勿論、基地ノ機能ニハ種々有ルガ、カクノ如キ基地ノ觀念ヲ以ツテ綜合国土建設ノ指導的技術理論トスベキヲ考ヘルノアル。即チ、軍事・政治・經濟・文化・民族的政策ノ概矣ヨリ必要機能ヲ具ヘタ基地ヲ設定シ建設シテ行クコソ重要ナル課題ヲナスモノデアアル。

### 三、經濟國土建設計画方法論

#### イ) 概 説

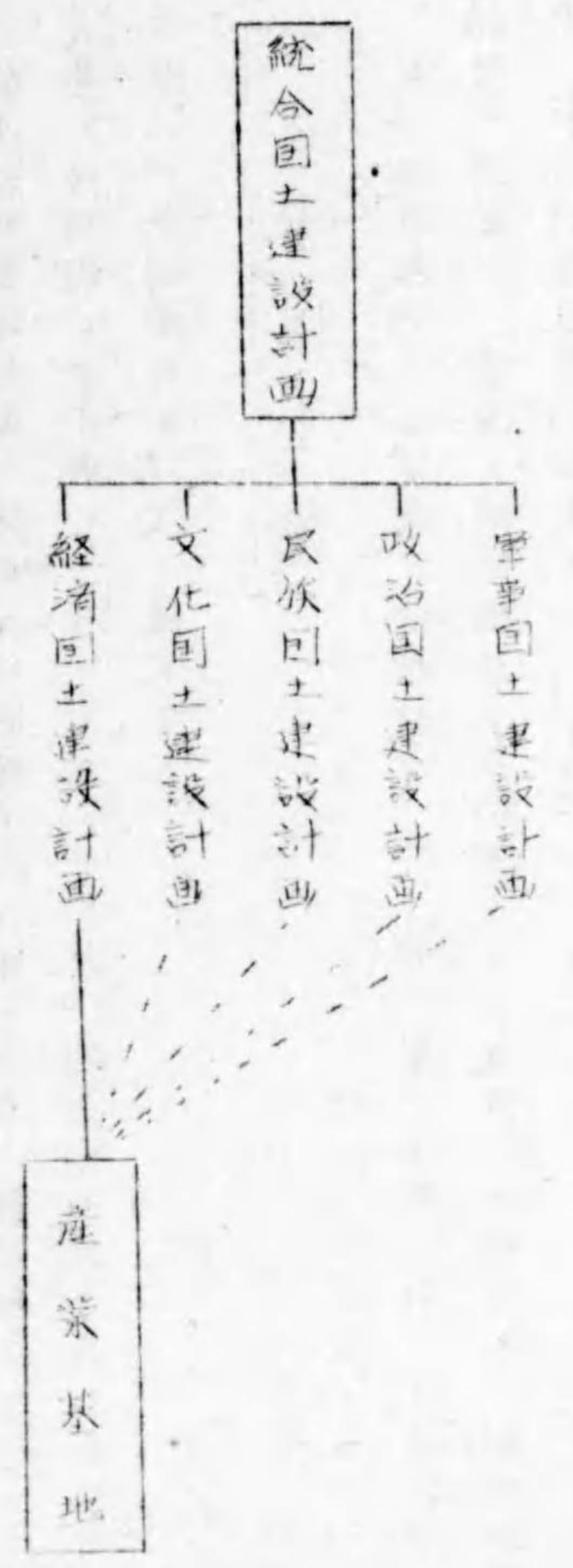
政治國土建設計画、文化國土建設計画等ノ方法論ニ就テハ他日ニ譲ルトシテ我々ハ産業基地ノ設置計画ニ必要ナ經濟國土建設計画方法論ニ就テ概観シヨ

ク、ニ云フ經濟國土建設計画トハ、資源開發ノ国土計画デアリ、資源支配化ノ国土計画デアリ、資源或ハ物資ノ消費化建設化ノ国土計画デアツテ、物ヲ中心ニ見タ国土空間処理方策ノ解決デアアル。

勿論經濟國土建設計画自体が一ツノ綜合國土建設計画トシテ存在スルモノデアルカラ、コノ計画ニ綜合サレ綜合サレルヨリ低次ノ計画トシテ、資源國土計画、生産國土計画、消費國土計画・流通國土計画等ガ存在シナケレバナナイ。ソシア、之等ガ各々ノ計画ヲ經濟國土建設計画ニ綜合サレテ政治經濟文化等ノ國土計画ト合テ綜合國土計画ニマデ綜合サレシガ確立サレテ後、ソレニ應ジテ今一度經濟國土建設計画ノ修正スベキハ修正シ最右的ニ実施經濟國土建設計画ガ決定サレ、其知カラ樹立サレタ産業立地計画ヲモツテ産業基地ガ建設サレル順序ヲ理想ト考ヘル之ヲ圖表ニテ判り易クスレバ次ノ如クナル。



ソコ以上ヲモ判ル如ク、経済国土建設計画ソノモノモ第二次のニ他ノ文化・政治・民族・軍事の諸観莫ヨリ批判サレラ最終於ナ実施設計画トナル。従ツテ一産業基地ト雖モ、他ノ文化・政治・民族・軍事等ノ諸政策ト一体的協力の性質ヲ持シテ建設サルベキ所以ガ判明スルデアラフ。即チ此ノ關係ヲ簡單ニ圖式化スルバ次ノ如クナル。



### (四) 内包トシテノ基本計画

経済国土建設計画ヲ構成スル四種ノ低次国土計画ニ就テ以下略記スル。勿論是等ハ併列的ニ個別的ニナサレモノテナリ、綜合同時的ニ為サレレバキデア  
ルガ、一定列挙スルバ次ノ様デアル

#### 一、資源国土論

之ハ現在賦存スル資源ヲ種類別ニ、ソノ地・量・位勢(註)ニ依ツテソノ相  
効度ヲ採算シ、資源ノ向榮順序トカ効率トカヲ決定シ、尚ソレニ対スル採算計  
画、育成計画培養計画等ヲサレバナラナイ

(註)コ、ニエフ位勢トハ、或ル資源ガ如何ナル地位ニ如何ナル状態ヲモツ  
ヲ賦存シテ居ルカヲ示スモノデアル。例へバ森林資源ニシテモ、ソノ  
質が極メラ長ク多量デアルニシテモ、其レが平坦地ヲ險シク山嶺地帯  
ニアルカデ價値ヲ異ニシ、或ヒハ密林デアルカ粗林デアルカデハキイ差  
異ヲ生ズル。石炭ニシテモ、ソレガ地工造イカ、地中採ク存柱スルカ

ニラ差異ヲ生ジ、或ヒハソノ資源域ガ北前砂漠地帯ニ在ルカ揚子江下  
流地帯ニ在ルカニ依リ大キイ差異ヲ生スル。故ツテ位勢ニ対スル採算  
ハ夕俊ノ技術的發展マ産業開始ノ進捗或ハ建設計画ノ実施ニ応ジテ、  
量ヤ質ニヨルモノ以上ニ變化ヲ受ケルコトガ充分ニ考慮サレ、採算計  
画ハ此ノ実カラモ考ヘラレバナラナイ

例、バ、人織用トシテ木材ヲ「パルプ」化スルコトハ、ソノ價カヲ  
言ツテ非常ニ下級品デアリ、一方木材ガ今後益々製紙資源トシテ或ハ  
構築資源又ハ化学資源トシテ莫大ナ消費ヲ予想サレソ、アルノミカ  
我ク建設戦ノ進捗ニヨツテ、ヨリ優秀ナ羊毛、綿纖維ガ我々ノ資源國  
土計画國內ニ入ラントシテキルコトヲ考ヘレバ、木材資源ノ保有マ培  
養ガ新シイ觀察カラ為サレバナラメシ、此ノ事ガ生産国土計画マ消  
費国土計画ニモ反映サレナケレバナラナイ

#### 一、生産国土計画

之ハ、現在アル生産施設ガソノ量ト質ニ於テモ勿論デアルガ、ソノ生産施設

ノ對應スル資源ト消費地域ニ應ジテ、地域的觀察力ヲ効率ヲ採リサレ、之ニヨ  
ツテヨリ有効合理的ナ再編計画ガナサレルコトモ必要ナルガ、次ニ進ムル消  
費国土計画ニ應ジテ如何ナル資源ノ何処ニテ生産スルカ、ソレニ對シテ爲メ、  
レル地域ニ就テノ地域別採集制ヲ必要トシ、又如何ナルモノカラ如何ナル程度  
ニト云フ緊急度採集制ニヨツテ生産国土計画ガ一連貫ヲモツテ決定サレレル如ク  
スル。

### 一、消費国土計画

「生産技術ハノ至上命令ナル節ニ於テ、消費計画ノ重要性ヲ強調シ、消費  
国土計画ノ重大意義ニ就テ一言シタガ、事實、理論的ニハ、資源ヤ物資ガ幾  
多クテモ利トイフ事ハアリ得ナイノデアアル。ゴムレガ利ル、砂粉ガ過多ク  
云ハレルノハ、勿論ソレガ現状ノマ、ノ認識デアリ表現ナラバ事實トシテ許サ  
シテモ、少クトモ建設ノ視カラスル表明ガナサレルトシタラ、ソレハ其ノ物  
資ヲ何ニ消費スレバヨイカト云フ種日ガ、或ヒハ將來ニ對スル見通シノ計画性  
ガ不明ナルデアアルマイカ。

或ル資源又ハ物資ヲ如何ニ消費スベク、何ニ生産スベキカ、其ノ生産ハ如何  
ニシ、其ノ生産力ハ如何ニシテ増強スベキカ等ト云フ生産計画（或ハ消費化計  
画）ニ對スル企画力ト実行力ノ無能ヲ万ニモ如上ノ認識ガ表明シタモノデア  
ルトシタラ、世界的民族ヲアリ世界ノ回家デアリ日本国民トシテ、他国家他民  
族ニ對シテ慚愧ニ耐ヘナイノミカ、アレダケノ雄軍ナ構想ト作戰計画トヲメ  
ラシ、而カモ辛若必重血ヲ以テ其レヲ実行シ、赫々タル戦果ヲ挙ゲツ、アル皇  
軍ニ何トシラモ申訳ナイ事デアアルマイカ。

軍ハ作戰用兵ヲモツテ軍事力ヲ最大ニ發揮スル事ヲ任務トシ、ソレヲ極限マ  
デニ發揮シテ來タシ、シツ、アル。我々国民ガ、其ノ辛苦ト忍重ト而シテ敢  
聰明ナル創造性ト計画性トニナラツラ、我民族天賦ノ力ヲ發揮シテ為サネハナ  
ラナカツタ事、ソシラ合直チニ為シ始メネバナラヌ事ハ自ら明ラカデアロウ。  
勿論過去幾年モノ間、我国ノ資源ト物資トハ極メテ貧困ニシテ、相リ余ル消  
費要求ニ応ズル事ガ出來ズ、生産ト云ハバ兎ニモ角ニモ生産拡充ガ叫バレ、先  
ゾ何デモカンデモ生産力ノ増強デ、ソコニハ本當ノ意味ノ計画ハナカツタ。  
消費ト云ハバ、一ニモ二ニモ消費規正ノコトノミガ計画サレ、在底的統制トシ



テ儉約ノミ云々サレ、コ、ニモ本当ノ意味ノ計画ハ存在シナカツタ。  
 全テガ此ノ様ナ消極的ノ考、方デアツタカラ、我々が如何ナル消費ガ如何程  
 必要デアルカト云フ概算カラ国防消費計画、生産消費計画、厚生消費計画等ガ  
 将来ヲ見通シラ大規模ニ遠大ニ立案サレバナイ事ヲ感調シテモ納得サレ  
 ナカツタノハ無理カラ又事カモ知レヌ。然シ資源或ハ物資ガ最モ有効ニ最モ  
 建設的ニ使用消費サレラノミ、資源ガ完全ニ開発利用サレ、生産ガ最モ其ノ機  
 能ヲ發揮シタノデアリ、換言セバ、資源ノ完全支配ガ為サレタト云ハルノデア  
 ル。

乃チ、世界建設戰完遂ノ為ニハ、軍事的ニハ如何ナル消費ガ如何、生産拡充  
 ニハ何が幾ラ必要等ヲ、一應現生産力モ資源状態モ無視シテ、大規模遠大ナ国  
 家消費計画ヲ樹立シ、コノ計画ヲ遂行スル為ノ生産力、生産組織ノ建設ト確立  
 トヲ計画シ、コノ計画ヲ為シツ、此ノ生産機能ヲ完全ニ稼働シ得ル資源ヲバ  
 出來ル事ナラバ経済的ニ入手スベク、ソレガ不可能ナレバ政治的ニ入手スベク  
 ソレモ不可能ナレハ最后ノ断トシテ武力ニヨリ獲得確保スル事ヲ辞セヌ方針ヲ  
 確立シ、労働力ノ問題モ技術ノ問題モ全テ此ノ線ニ沿ツテ強力ニ遂行セヌバナ  
 ラ事ガ述ベラレテ来タノデアル。

國家最高目標ニ統合サレタ、遠大ニシテ完全ナ消費コソ與ノ生産デアリ建設  
 デアルト云フコト、カ、ル積極的ナ消費化計画ガ「建設戦ノ設計」ノ節ゾモ述  
 ベタ如ク、我國ノ雄軍ナ世界建設ニ於ケル最モ重要ニシテ積極的ナ企劃設計ノ  
 一ツトナラネバナラヌ事カ、実践ニ於テハ何論、理論ニ於テスノ、人々ノ納得  
 ノ遙カ彼方ニ沈着シテキル様ナ現状ハ、持々ガリシ固ノ悲哀トカ助ク我ガ困ヲ  
 痛メツクタ米英ヘノ憤リト云フ、感傷ノ域ヲ超ヘテ、寂シイコトデアル。

我々ハ、余リニ眼前ノ多忙ト貧困ト困難ト急務トノ為ニ、ソレヲ知リツ、モ  
 為シ得ナカツタノカモ知レナイ。然シ既ニ敵ハ駆逐サレヌキル 新シキ頁ガ、  
 而カモモシ我々が希望シサハスレバ白紙ノマ、テ繰拵ケラレツ、アルノダ。今  
 コソ雄大ナ構想ト遠大煥重ナ作戰計画トヲモツテ、時契期トイフ神ノ賜物ヲ、  
 真ニ役立テネバナラヌ。此ノ期ニコソ、如何ニ雄大ナ構想モ企画モ実行モ断乎  
 開始シ得ルノデアル。

一、流通国土計画

以上ノ三国土計画ハ、謂ハバ經濟国土建設計画ノ静的部面ヲナスモノデアアル。此ノ外ニ考ヘネバナラヌモノニ、其ノ動的部面トシテ流通部門ガアル。即チ資源、生産、消費ヲ結びツク一體化シテ動的ナモノトシテ現実ノ國家生活ヘト邁躍サセル為ノ、輸送、資金、配給等ノ部面ニツイテノ計画ヲ必要トスル。而シテ、之ニ対シテハ、サキノ生産国土計画ニ於テモ述ビタガ、現状ノマ、ニ於テ凡ユル地域ノ凡ユル資源ガ如何ナル経路ニヨツテ如何ナル地域ノ如何ナル生産現場ニ結バレ、ソレハ如何ニシテ其ノ消費地ニ齎サレルカト云フ流通ル一ムヲ調査シ、之ヲ効率的ニ批判スル事ニ依ツテ新フニ一結ビ付キヲ設計シ再編スルコトハ重要デアアル。

之ハ資金方面ニ於テモ同様デアラウ。

要スルニ我々ノ經濟国土建設計画ヘ或ハ統合国土建設計画ニシテモ本が同様デアアルガ一ハ、斯ル専門的分化ノ課程ト綜合的一元化即チ統合ノ課程トヲ經テ究結サレテ行クモノデアアル。

ハ、基本調査

以上ノ經濟国土建設計画ノナス為ニ必要ト思ハレル基本調査ヲ各項目別ニ列挙シテ置ク。然シ之トテモ全テ此トノ内建ニ於テ綜合的ニ行ハレルベキハ(四)ノ項ニ於テ述ビタト同様デアアル。

一 資源調査

- △ 農、畜、水、山、鉱等ノ各物の資源ノ量、質、位勢ノ調査
- △ 地勢、地質、氣候、風土ニ關スル細目調査
- △ 人的資源ノ数量的面トシテ、各民族・國家ノ労働力ノ量及ビ質ノ調査
- △ 人的資源ノ精神的面トシテノ各国民性・各民族性及ビ其ノ對帝國觀念ニ情等ノ調査

一 生産力調査

- △ 原食糧生産力調査
- △ 加工食糧生産力調査
- △ 鉱物資源開発力調査

- △ 化学資源開発力調査
- △ 建設産業能力調査
- △ 資材生産力調査
- △ 製造生産力調査

尚此ノ外ニ次ノ如キ類別ニ依ル調査ヲモ必要トスル。

- △ 厚生消費生産力調査
- △ 生産消費生産力調査
- △ 国防消費生産力調査

以上合ラガ又、国別民族別地域別地方別等ニ分ケテ調査サレホバナラヌ等ノ事ハ全テ国土計画ノソレニ照應スル。

—消費調査—

- △ 国別・民族別調査
- △ 地域別・地方別調査
- △ 厚生消費・厚生消費・生産消費・国防消費別調査

△ 種目別調査

以上ガ互ニ重複シテ調査サレル。

—流通調査—

- △ 輸送能力
- △ 流通ルート（資源→生産→消費ノ系統図）
- △ 資金動態
- △ 配給機構

# 第二章 大東亞産業地域図

經濟国土建設計画ノ設計ハ以上ノ如ク他部面ノ建設設計ト内連シテ統合的ニ  
決定サレルガ、我々ハ先ヅ大東亞全域ニ亘リテノ地域ニ如何ナル産業ノ導入  
ベキカラ、他ノ政治・文化・民族・軍事等ノ視點ト内照シテ考ヘテ見ル必要ガ  
アラフ。

即チ大東亞図全域ニ亘リテノ大地域別ノ産業地域図ヲ斯ル意味カラ素描シテ  
見ルト別図ノ如クデアル。

此ノ中デ特ニ重要視スベキ産業基地地域ヲ次ニ挙ゲ置ク。

北米カリフォルニア州地域

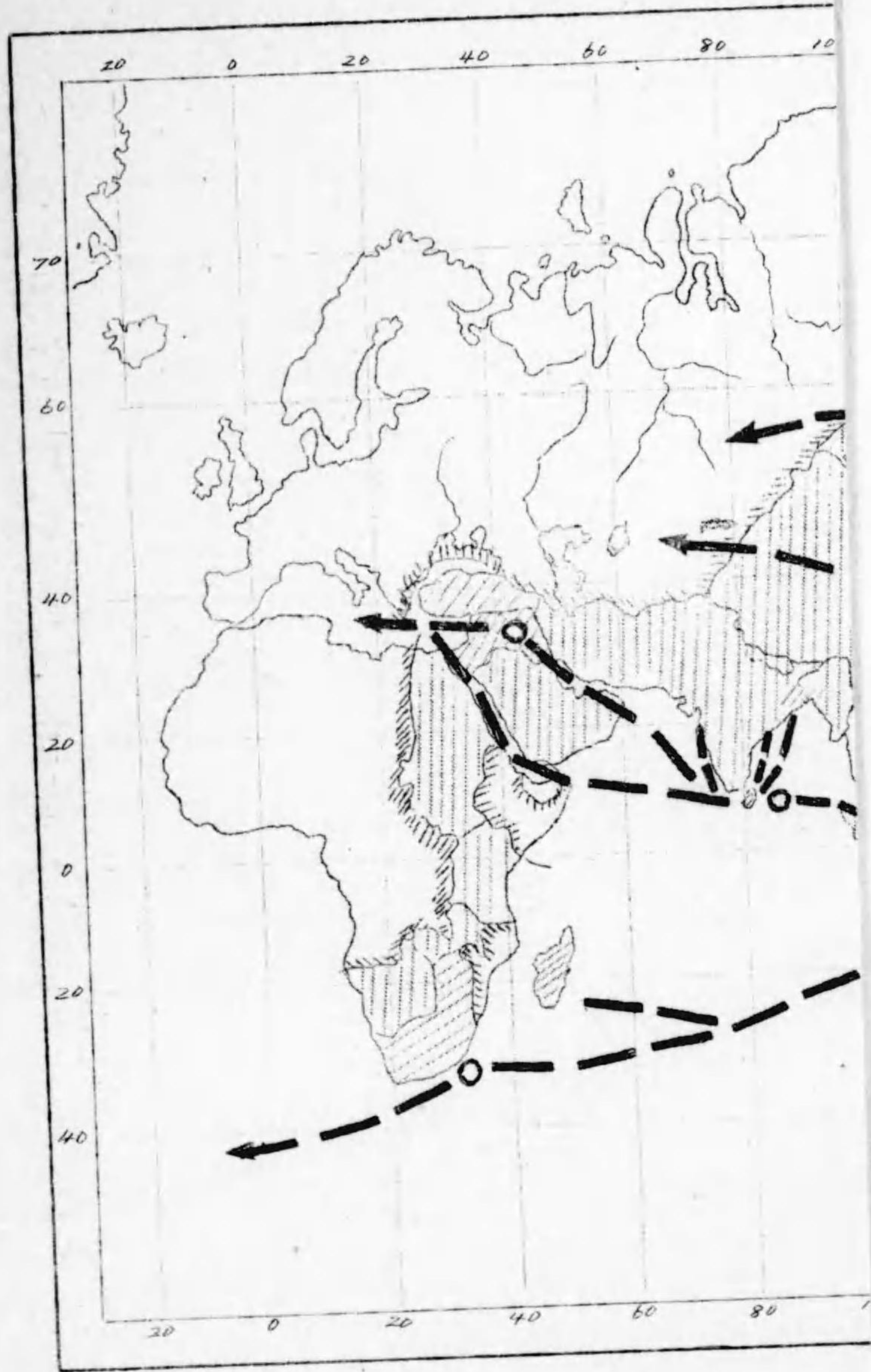
パナマ・コロンビア・ホルンビア地域

ハワイ諸島

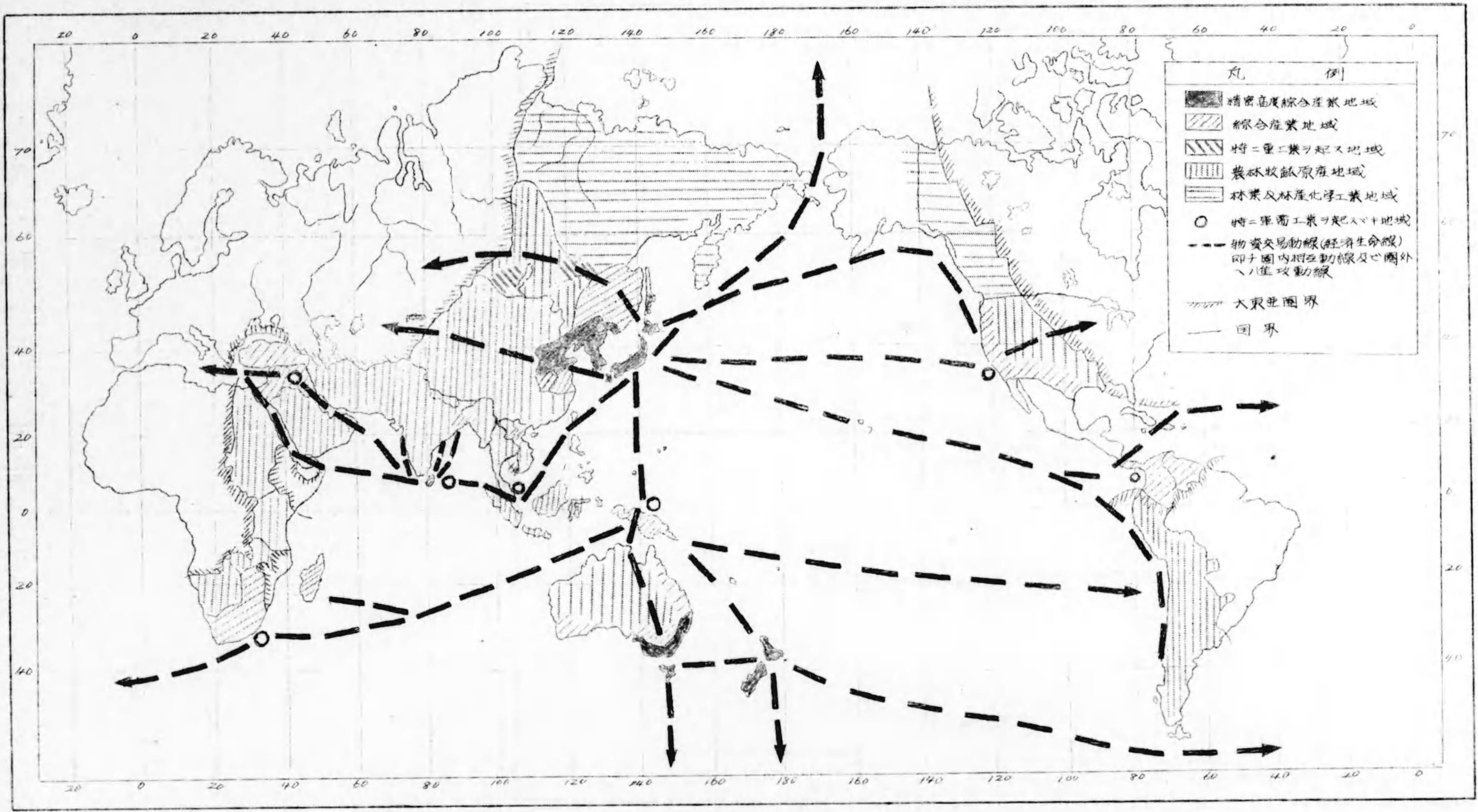
ニュージールランド

オーストラリア東南部及ビタスマニア島

パプア島



ニール  
ニール



パプア島

1938年

マレー半島

セイロン島

南阿聯邦地域

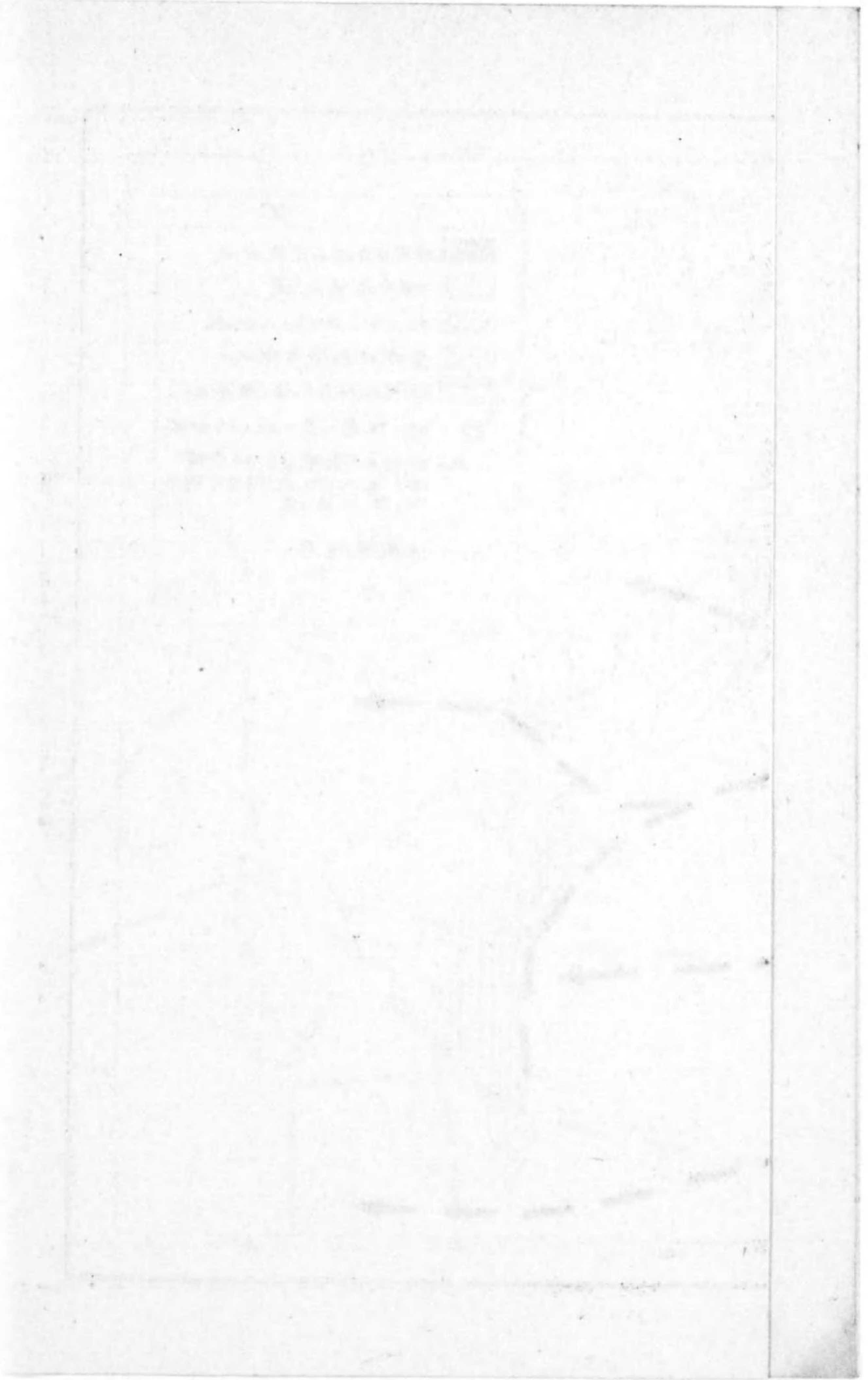
キプロス島・シリア・イラク地域

北支へ海州・鄭州・太原・天津地域

セーヤ地域

北海道へ勇辨・留萌地域

勿論以上ノ重要基地地域ハ我が直轄地トスベキモノナラズ



### 第三章 産業基地ニ就テ

我々ハ第三編第三章ニ於テ「物」ノ面ノ解決策トシテ産業基地ナル觀念ヲ提  
示シ、之ノ設置ヲ主張シタガ、其ノ理由ハ本編ノ第一章ヲ讀マレル事ニ依ツテ  
モ或ル程度判明スルデアラウガ、此ノ実ヲヨリ明瞭ナラシメル為ニ以下産業基  
地ニ就テ種々ノ角度カラ述バルコト、スル。

#### 一、ソノ定義トシテ

人向生活ニ要スル物資ハ、特ニ文化ノ發達ニタ今日ニ於テハ大地ヨリ生レ出  
テタル資源ガ其ノ儘テ消費サレルコトハ稀ナリ、資源地カラ生産地へ、更ニ  
又消費地ヘト加エト運輸トニヨツラ價値ツケラレテ行ク。我々ノ言フ産業基  
地トハ、之ヲ一言ニシテ言ヘバ、「資源ヨリ生産へ、生産ヨリ消費ヘト、加エ  
及運輸ノ統合的合理化ニヨリ物資ノ能率的價値付ケテナシ、ソノ合理的高度生  
産ヲ目的トスル計画的綜合的ナ資源正用産業」都市ノ謂デアル。

近代戦ヲ如何ニ莫大ナル物資ヲ消費スルカハ喋々スルマテモナイガ、我々ノ  
当面スル世界 建設戦段階ヲ我國ガ主導力トナツテ戦ヒ抜クタメニハ、大東亞  
コソ世界ニ於テ最モ多量ノ物資ヲ生産シ消費化シテ行カサルヲ得ナイ。其ノ為  
ニハ、我々ハ工業分散論トカ均衡論トカヲ時ニハ止揚シテ新タナル見地ニ於テ  
産業国土計画ガ考ヘラレネバナラヌ。テハ産業基地ノ設置ハ如何ナル見地ニ於  
テ要求サレルノデアアルカ、以下列挙的ニ要請ノ理由ヲ略述シテミヨウ。

#### 二、産業基地要請ノ理由

##### (1) 資源獲得的見地

「基地ノ觀念」ノ項ニ於テ述ベタ如ク、地政学的見地ヨリスル迄モナク、一  
次領域ノ支配ガ常ニ其ノ領域ニ対スル特定ノ地区ニ依據スルコトハ、依戰行動  
ニ於ケル軍事基地ノ存在ニヨツテモ明カデアアル。同様ニシテ物資ノ獲得戰ニ於  
テモ、或ル物資ニ対スル敵性諸国家諸民族ノ最モ合理的ニ之ヲ獲得シ支配  
スルニハ、其ノ物資資源域ニ対シテ斯ル支配的特質的地勢地位ヲ具ヘタ地是ニ

コソ大東亜建設産業基地トシテ生産基地・流通基地・消費基地或ヒハ農業基地  
工業基地等々が設置サレナクレバナラナイ。而カモ世界情勢ハ如何ナル国家ガ  
何時敵性国家トナルヤモ固リ知レヌノデアアル。我々ハ此ノ故ニ、勿論我が国ノ  
政治力・経済力・軍事力等ヲ考慮シツ、モ、ヨリ基本的ナル力即チ天賦ノ地勢  
地位ノ強弱・資源ノ在リ方、民族ト其ノ土地トノ関係(即チソノア支性ノ究明  
等ト云フドワニモナラヌ地トア支トノカ或ヒハ空向ト時向ノ現実スルカヲ深  
ク究メ、地政学或ヒハ地経済学等トイフ立場カラ産業基地ガ設置サレ国土計画  
ガナサレルコトヲ要求シタシ。

□ 資源支配的見地

我々ハ滿洲ハ勿論内地ニ於テモ或ヒハ南方ニ於テモ、国家的高イ見地ニ立  
ツテ幾多ノ生産施設ヲ建設シ又運転シツ、アル。ソレガ最大ナモノデアリ計画  
ガ綜合的聯閣的デアレバアル程、建設固定資金ヲ回收シテ採算点ニ到達スルニ  
ハ時向的距離ヲ必要トシ、綜合的聯閣的施設ガ完成シ全部ガ運転ヲ開始スルマ  
テハ、少クトモ計画時ニ目標サレタ全機能ヲ發揮スルコトハ出来ナイ。

而カモ個人主義的ナ資本主義ニ基ツク利権性経済ヲ止揚シテ一体主義ニヨル  
国家計画経済ヲ以テ世界建設戰ヲ遂行スルニハ、此ノ所スニシテ綜合的ナ計画  
ハ益々強調サレ強化サレナクレバナラナイ。ト云フヲ我々ハコノ採算性トイフ  
カ、換言スレバ、建設投下資金ニ対シテ不均衡ナ本ド僅少ナル生産ヲ以テ、ソ  
レガ国家ノ要請スル物資故ト云フ理由ニヨツテ満足スベキデナク、カ、ル考へ  
ハ否定サレバナラヌ。勿論絶対重要ナ物資々材ノ生産ニ対シテハ、或ハ如何  
ナル高價ヲ拂フテモ生産サレバナラヌ理由ハアコウ。然シ国家全体ノ経済ハ  
常ニ赤字デハナクシテ黒字デアルコトガ主張サレバナラヌ。  
又トヘレバ、国家全体ノ経済ガ百噸ノ鉄ヲ要求スルノニ、コノ製鉄施設ニ一  
万噸モノ鉄資材ヲ使用スル如キコトハ国家全体ノ経済「バランス」トシテ否定  
サレバナラナイノデアアル。勿論此ノ事ハ、資材ノ中ニ労働力トカ生活條件ト  
カ技術トカヲモ含メテノ「バランス」デナタレバナラヌ。我國ノ經濟圏デア  
ル大東亜建設圏ニ於テハ此ノ經濟「バランス」ガ常ニ全体トシテハ「コアシス」  
デアアルコトガ要求サレルノハ当然デアアル。コトカラ生産ノ經濟性ハ常ニ考慮サ  
ルベキ謂レガアル。



産業基地理論をコレカラ逸脱スルコトハ出来ナイ、カ経済性確保ノ一重要因子トシテノ府向的空間的距離トイフモノヲ重視スル。

即チ、資源ノ價值ハ其ノ産業基地ヘノ距離ニ比例シ、産業基地ノ價值ハ其ノ消費圏ヘノ距離ニ比例スル。物資ノ生産ト消費、即チ資源完全支配ノ綜合計画的合理化ノ為ニハ、綜合計画ニヨル綜合企業ガ必要トスル諸多資源域ト消費圏トノ最大公約数的地丈ニ、生産流通等ノ綜合産業組織ノ計画的建設即チ産業基地ノ設置ヲ必要トスル。

### (ハ) 合理的 高度 生産的 見地

国防経済的ナ産業配置ノ向題ハ、實際的ニハ複雑ナ企業(産業)ノ結合及レ協業ノ形ヲ解決サレル必要ガアル。即チ、相隣時ニ相協業スベキ一群ノ産業ハ其レガ有機的ニ綜合的見地ヨリ計画的ニ結合配置サレタ時ニ、最も能率的ニ機能ヲ發揮シ得ルモノデアアル。一般ニ今後ノ計画経済ノ下ニ於テハ、技術カ資本ノ制約ヲ離脱シテ自由ニ發展シウル如クナルカラ、カ、ル綜合企業形態ハ重要ナ意義ヲ持ツ。同種企業ノ結合、或ヒハ一生産過程ノ逐條段階的ナ連鎖結

合(即チ生産ノ一次的綜合形式——統合理論ニ就テハ後述参照)ト云フ單純ナ結合形態ノミナラズ、国防産業ノ重要企業アル造船・車輛・航空機・造兵・造機工業等ヲ軸トシテ「ピラミッド」的ニ而カモ互ヒニ重複シナグフ統合サレテ行ク各部門間ノ協業、各經濟地區ノ結合或ヒハ原料資源及ビ動力資源ノ連鎖利用ニヨル資源ノ完全支配ヲ目指ス複雑ナ結合形態ガ實現サレヌバナフ又、而カモ之ガカ、ル綜合企業形態實現ニ時局的條件ヲ有スル一地区ニ集約的ニ計画施設サレタ時、ソレハ地區的綜合企業体トシテ最高能率最大機能ヲ發揮シ得ルノデアアル。

即チ、高度ノ科学的計画性ト綜合性トヲ以ツテ構成サレタ産業基地ノ設置ハ此ノ見地ヨリモ強調サレルノデアアル。

### (ニ) 産業 軍 練 成 確 立 的 見 地

廣大ナ大東亞地域ニ於テ産業軍ノ大部隊ガ其ノ實踐理念トズル奉公精神ヲ具體的ニ生産行動ニ結果シテ行クタメニハ、小部隊ノ各地分散ハ能率的ニモ極メテ不利デアアル。量的ニ相当大ナル部隊ガ、而カモ質的ニ相隣時ニ協カスベキ諸

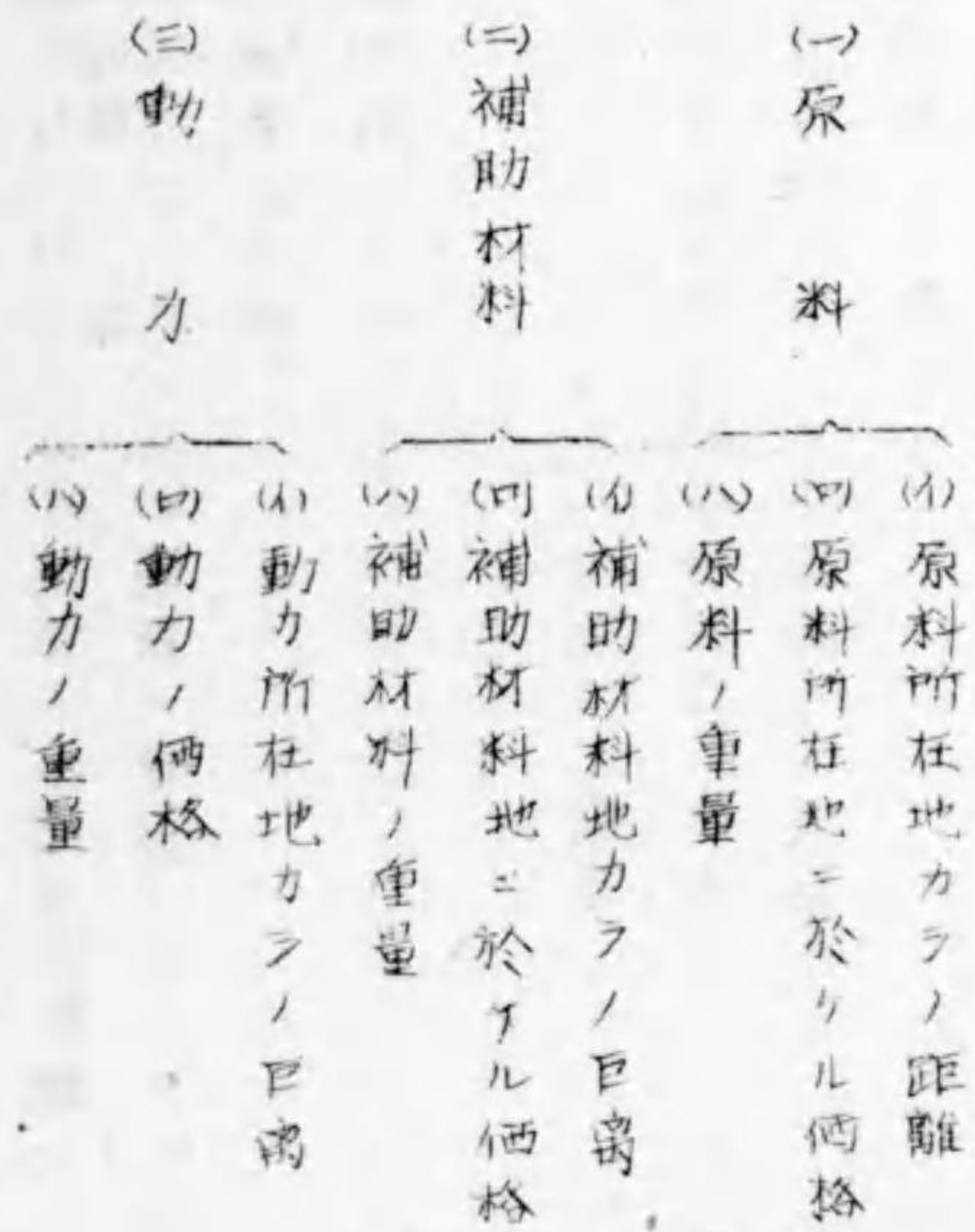
部隊が、総合計画的産業都市ニ於テ一體的ニ線成サレテ、カクシテ原因ナル実践活動方式ヲ先ヅ確立セネバナラヌ、然ル後漸次之ヲ他民族他国家ニ及ボシテ彼等ヨリ此ノ方式ニ導入運融シ全地域ニ之ヲ徹底シ樹立スルヲ最良トス、従ツテ産業基地ハ、實ニ日本民族ノ奉公挺身国民皆勞ノ最大最高ノ職場トシテ建設サレネバナラナイ。

### 三、産業基地ノ素質的條件

謂ハバ産業基地ノ立地條件ニツイテ略記セントスルモノデアアル。コ、テ向題トナルノハコノ立地條件トシテ自然的條件(自然環境又ハ自然景觀)ト人為的條件(後天的環境又ハ文化景觀)トガ考ヘラレ、人口的要素トシテ其ノ密度・分布・民族種別・性格・性別・増殖率・労働能力が果シテ何レニ弱スルカ、或ヒハ廢衰的要素トシテ其ノ分布・構成・發達形態・却色等が果シテ何レニ弱スルカ、其等が極メテ自然的條件ニ密接ニ附着シテ生物分布的様相ヲモツテ自然的ニ發生シタモノデアアルトスレバ自然的條件ニ屬スルモノデアアルガ、大東亞

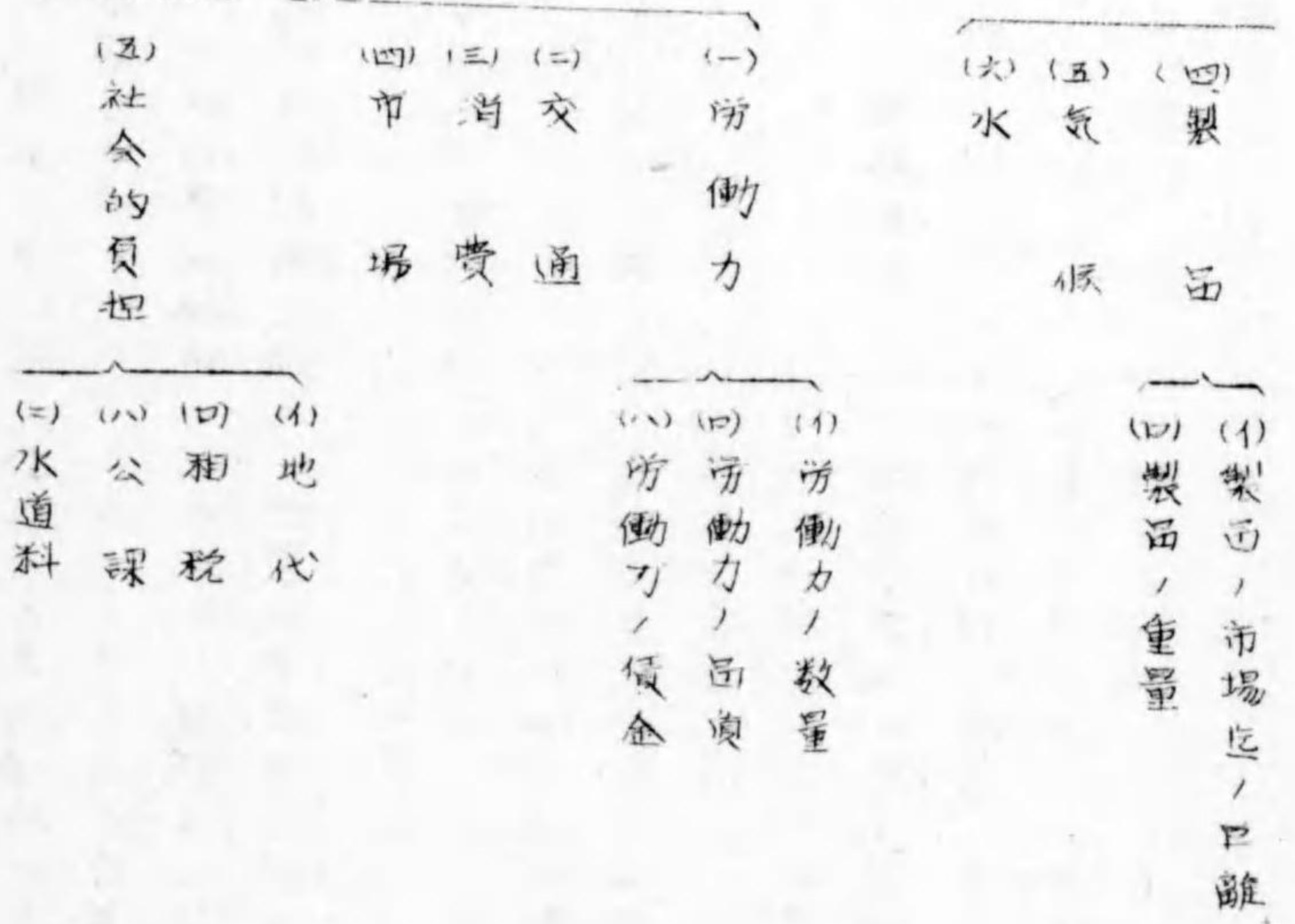
建設が全然新ニ觀タラ、場合ニヨツテハ今迄ノ人為的條件ハ全然無視シテ行ハレネバナラヌコトヲ考慮シテ、コ、デハカ、ルモノヲモ全テ後着ニ屬スルトシテ最モ基本的ナ條件デアアル純自然的條件ニツイテノミ略記スルコト、スル。今之ヲ工業立地ノ立場ヨリ、川西正鑑氏ノ工業立地因子圖式ニ依ツテ考ヘテ見ヨウ。

即チ川西氏ノ立地因子圖式ヲ記セバ次ノ如クデアアル。



### A. 自然的立地因子

B. 人為的立地因子



- (六) 經濟的予腕
- (七) 傳統(人的)
- (八) 國家政策

(九) 其他

上記ノ圖式分類法が正シクカドウカ、或ハ以上デ立地因子ノ全部ヲ一處列挙シテ居ルカドウカハ別トシテ、此ノ中デ「A」ノ(一)、(二)、(三)、(四)、ノ觀ニハ我々ノ方式デハ前項ノ「資源支配的見地」ヨリ解決サレルモノデアアル。

而シテ「B」ノ(一)労働力或ハ(五)社会的負担ニ就テハ、今後益々(八)國家政策ニヨル國家意志ノ發動が強化サレザルベカラザル事情ニアリ候ツテ長等ハ人為的ニ相当自由ニ設計シ得ルコトヲ思ヘバ、コレヲ労働力ヤ社会的負担ノ基礎トナルベキヨリ素原的ノ條件タル氣候風土或ハ地性等ノ方が重要ナル因子トナルデアラフ。

又(七)ノ傳統ハ立地因子トシテハ氏モ述ベテ平ル如ク、其レ程重要性ヲ置ク必要ナク、(六)ノ經濟的予腕ハ其レ自身トシテハ立地因子(誘引條件)トハ成リ得

ナイ情勢ニアル。

長等「A」「B」ノ因子ヲ或ル概矣ヨリ配列スルコトニヨリ、我々ノ三ツ資源獲得の見地及び合理的の高度生産の見地ト云フ国家政策的ナ立地計画解決策ヲ引キ出シ得ルトモ言ヘヨウガ、ソレ自身トシテハ斯ル解決ハ為シ得ナイ。

而カモ現在我々ノ最モ欲スル事ハ、既往ノ立地状態ノ介拆表不デハナクシテ如上ノ国家政策ヲ決定スベキ原理デアリ、ソノ具体策デアリ、此ノ国家政策ソノモノハ最高意志トナツラ立地決定ヲ為スベキコトヲ考ヘレバ、我々ノ為スベキ事ハ斯ル列々の図式デアルヨリモ、最高意志トシテ統合スベキ国家政策ノ原理方式ノ製出デナケレバナラナイ。

此ノ意味ニ於テ、我々ハ産業基地ヲ述バルニ当リ基地立地因子ノ列挙ト云フ方式ニ依ラズ、「基地要請ノ理由」ト云フ政策的記述方法ヲトツタノデアル(註)斯ク見レバ立地条件トシテ今考フベキモノハ、国家政策ニヨツテモ如何トモナシ得ヌ(勿論科学ノ進歩ニ依ル技術的解決方法ハ發達スルトシテモ)自然的条件(素直的条件)ノ検討デアル。コノ自然的条件ノ中ノ資源的条件或ハ消費的条件(市場等)ニ就テハ前項ニ於テ述バラレテ居ル故ニ、此処デハ動力・勞

動力・交通其他ノ基礎トナル土地・空間ノ諸性質・諸様相ニツイテノミ述バルモノデアル。

一、水——飲料水トシテモ工業用水トシテモ量及び質ノ両方面ヨリ決定的ナ因子トナル。水質ニ就テハ持ニ化学工業ニ絶対的ニモノヲ云フガ、一般ニハ色度、濁度及びアルカリ度又ハ酸性度低ク、塩類・酸化鉄・有機物ノ混入ナキ硬度低イ塩分度少キ淡水ヲ理想トスル。水量ハ四季ノ通ジテ差異無キヲ理想トシ、ソノ絶体量ハ産業基地ノ規模ト林述ニヨツテ異ルガ、水源地ニ於テ適當ノ落差ヲ持ツ事ヲ理想デアル。

一、動力——動力ハ全テ現地調達ヲ原則トシナケレバナラナイ。従ツテ基地ハ附近ニ多量ノ発電能力アル河川或ハ湖沼ヲ有シ相当量ノ水力電気確保シ得ル条件ヲ具備スルカ、又ハ比較的巨離ニ石油石炭等ノ動力資源ヲ豊富ニ持チ火力発電可能ノ地デナケレバナラヌ。特ニ寒地ニ於テハ火力的動力資源ガ近ク存在スルコトガ非常ニ要求サレル。

一、地殼条件——地勢關係トシテハ相当ニ面積大ナル平坦地ガ要求サレル。土地ノ狹隘ハ特殊ノ發展ヲ阻止シ基地ノ能力ヲ制限シ、居住的条件ヲ不健康地

化スル可能性アリ。地相的ニハ其ノ地域ニヨツテ常風向・最強風向・日照及  
・日照位等ヲ考慮スミキテ一概ニハ言ヘメテ東南<sup>（北東）</sup>ニ向ツテ發展性ヲ有シ其レニ  
平行シテ運輸路トシテノ海岸線・運河・交通動線ヲ有スルカ建設シ得ルヲ良シ  
トスル

地盤内係ニ就イテハ、重量建造物建設上及ビ重量作業等ノ内係ヨリ安定ニシ  
テ鞏固ナル地質ヲ可トシ、地下水ニヨリ流出スルコトナキ砂礫層、礫層等ヲ理  
想トスル。土質トシテハコノ外ニ居住の見地其他ヨリシテ、有害量ノアルカリ  
・酸ヲ含マズ有機的ニ汚染サレズ、有害ガスト發生セス、雨水等ノ吸水ヨク可  
成リ乾燥地ニシテ而カモ農耕等ニモ適スルコトヲ要求サレル

一 運輸——物資・資源ハ多重ニ賦存スル故ニ有効ナノデハナイ。ソレガ陸  
運・海運・空運等ニヨリ輸送サレ、ソノ向ニ或ハ加工サレ或ハ変形変賣サレ製  
造サレテ消費サルベキ所ニ持來サレテ眞ニ價値アルノデアル。而カモ其向輸送  
ノ利用ハ僅少ナホド經濟價値ヲ高メ得、一方輸送機関施設モ其ノ建設ト運送ニ  
於テ犧牲ガ小ナルホド良イ、

従ツテ基地ハ、陸運 空運或ハ水運等ノ利用可能ナル平坦地トカ港湾ヲ持ツ

コトガ必要ナル。更ニ工業港トシテ建設的ニモ好條件ヲ具備シタ土地タルベ  
ク、港湾ノ岸壁長ケレバ長キ程ヨク地相的ニモコノ港考ガ運送路ヲ兼ネル中ガ  
望マシク、此ノ文ヨリ運河形式ノ工業港建設可能ナル地域モ好條件ヲ具ヘタモ  
ノト言ハル。

一、氣候風土條件——之ハ主トシテ居住の見地カラ考ヘラルベキモノデ、温  
度、湿度、日照、雨量、空氣、自然の景色等ノ關係ガ民族ノ生存發展上カラ見  
テ 人的資源ノ厚生保健ニ適シ、筋肉労働及ビ智能活動ニ適スル所ヲ理想トス  
スル。尚其土地ニ既ニ民俗ガ或程度ニ高度ニ發達シテナル時ハ、新ニ移駐ス  
ル我民狄生活ガ其為ニ有害ナル方向ニ影響サレザル如キ地域デアルカ、カ、レ  
條件ヲ防圧シウル手段方法ヲ講ジ得ベキ地域デナケレバナラヌ。

消費合理化ノ見地ヨリハ基地ノ全人口ガ常時必要トスル必需食糧品ハ其ノ周  
辺地域ニ於テ自給スベキヲ立前トシ、此ノ矣ヨリ基地ハ氣候風土的ニモ充分ナ  
ル農水産能力ヲ具備スルヲ可トスル。

(註) 此ノ事ハ政治基地、文化基地、民族基地等ヲ考ヘル場合ニモ全條ナラ  
ズニヨルベキデアル。

### 四、現下ニ於ケル基地ノ設置位置

日本国土ノ三十倍ノ陸地面積ト怖シク広大ナ海洋トシテ我が産業軍が指導經營シ而カモ之ヲナスベキ我が産業軍構成日本人口ガ僅少ナルコトヲ考ヘレバ、勢ヒソノ全地域ニ於テ我民族ガ常ニ「自ラノ手ニ依ツテ」資源ヲ開發シ生産化シテ、之ヲ帝國及ビ大東亞ノ建設的意義ニ活用スルコトハ出來ナイ。コトニ於テ、日本民族ガ眞ニ「自ラ」ノ國土トスルニ足ルヨキ土地ニ極メテ大規模ナ産業基地ヲ設ケ、其ノ基地ノ勢力圈内ニアル資源及物質ハ、現住民族或ヒハ他國民ニ依リ開發生産サレタモノモ又小規模無計畫ニ行ハレタモノモ全テ其ノ基地ニ集注吸引サレル如キ体制ヲ整ヘネバナラズ。

此ノ事ハ人的資源ノ能力ヲ極度ニ發揮スルタメニ「人」ノ解決策トシテ産業軍が考ヘテレタト同様に意味ヲ僅少ナ人口量ヲ極大ナ建設戰ノ遂行スル為大東亞内資源ヲ極度ニ有効ニ能率的ニ獲得シ分配スル目的デ「物」ノ面ノ解決策トシテ要請サレル産業基地設置ノ方法論ヲアル。

而シテ、此ノ事タルマ、當ツテノ如ク自由産業資本ノ拓殖的開發事業トシテ

國家的全体的計畫ナク私利的慾意ニヨツテハ決シテ為サレルモノデナク又新ニデ為ヌベキデハナイ。我々ハ其ノ極メテ不都合ナ結果コト既ニ現代ノ都市形成ニ於テ、或ハ開發産業ノ「マリカ」ニ於テ否、個人主義的ナ資本主義的ナ凡ユル利潤性經濟事象ニ於テ見セツケラレテキル。

即チ、「今日以後、最早吾々ハ一ツノ土地ヲ、掠奪スレバ、次ノ新シイ土地ヘ移ルトイフ遊牧者、放浪者デハアリ得ナイ。吾々が森林及ビ木材産物ヲ持ツナラバ吾々ハ伐採シタト同時ニ是等ノ森林ヲ育てネバナラズ。農場及ビ畑ノ作物ヲ喰フト云フナラバ、土地ノ沃土ヲ保護シ恢復セシメネバナラズ。魚ノ野獸ヲトルト云フナラバ、其ノ供給ヲ保護シテ、海ノ湖沼、河川ノ原野ガ吾々ニ與ヘル事ノ出來ル以上ニ之ヲ捕ラヌ採心掛ケネバナラズ。要スルニ良キ土地ハ盜ム可キ宝庫デハナク、豊カナル貯藏庫デアル。吾々が一方ノ口カラ取り出シタ所ノモノハ之ヲ他方ノ口カラ補給シナケレバナラズ事ヲ知ラネバナラズ。」

コノ事ハ、今ヤ行動ガ常ニ計畫ヲ必要トシ、尚ソレガ必ズ全体的ナ國家的立場ヨリ國家的規模ニ於テナサレナケレバ望ム効果ヲ得ズ。タトハ一部分的ニ行ツテモ為シ遂ガ獨ナイコトヲ明白ニシテキル。我々ハ余リニ多クノ事ヲ見

々。優勢ナ森林資源ガ資本性營利会社ノ他クナキ利肉追求ノタメニ、極メテ放  
埒ニ濫伐サレ酒渴シタノヲ見タ。重要ナ漁場ガ工場排水處理施設ニ資本ヲ投ズ  
ル事ヲ厭フ会社ノ爲ニ荒廢サレントスルノヲ見タ。

既ニ現代ニ於テハ當ツラノ遊牧時代ノ如キ粗放ナ人間生活ハ不可能トナツタ。  
社会ノ發展、換言セバ人口量ノ増大ト人間の慾望ノ累増トガ、自然資源ニ対シ  
圧迫的要素ヲナス程度ニ激化サレ、施策ノ計画化ト經營ノ集約地トガ必須ノ情  
勢トナツタ。乃チ、極メテ大ナル資本ト高度ナ技術ノ計劃的配置ト綜合的連營  
トガ絶対必要アリ、産業基地ハ必ず国家資金、国家資材、国家技術ヲ以テ、  
大東亜建設戰的觀矣ヨリスル統合国土計画ニ立脚シテ布石サレネバナラナイ。  
テハ産業基地ハ前述シタ理由見地ニ立ツテ其ノ立地條件ニ叶ツタ地矣ハ全テ  
直チニ設置サレルベキカトウカ。

前ニモ述バタ如ク我々ハ極メテ小教ノ主專的ナ日本民族人口ニ依リ、急激ニ  
拡大サレタ生活空間ヲ統合的ニ開發經營セネバナラヌ、即チ、指導的立場ニア  
ル我民族ノ人的資源ノ量ガ比較的僅少ナル事ヲ認メル故ニ、統合国土計画ニ立  
脚シテ、大東亜全域ニ於ケル經營生産ノ施設・組織・機構ヲ一季ニカ、ル高度

ナ集約化ヲ目指シテ遂行シヨウトスル机上論ニ加担シ得ナイ。

既ニ記シタ如ク其ノ氣候・風土・景觀・空間的抜ガリ等ニ於テ、我々民族ガ  
定住シテ充分ナル国土トナン得ル如キ優秀ナ土地例ハ、北支、「マレー」  
「バプア」島、「セイロン」島、「ニュージールランド」島、「オーストラリア」  
大陸東南部、「ハワイ」島、或ハ「カリフォルニア」等ヲ大東亜建設戰「ヒイテ  
ハ世界建設戰時代ニ対スル我が國ノ完全ナ基地トシテ直轄地タラシム方針ヲ決  
定シ、大東亜國內物資ガ此等地方ニ極メテ円滑ニ流入吸引サレル如キ資源獲得  
的見地ニ立ツ救地矣ニノミ完全ニ高度ナ集約化ヲ目的トスル地區綜合企業形態  
トシテノ産業基地ヲ占領トスルニ次々ニ建設シテ行クベキモノトスル。  
今直チニ、同時的ニ他地方全般ニ対シテモ近代規模組織ノ施設ヲナサント  
スル事ハニ免ヲ違ツテ一先ヲモ得ナイ結果ヲ必然スル事ヲ恐レル。

### 五 産業基地ノ種類

産業基地ニ対スル理解ヲ容易ニスル爲ニ、産業基地ニハ如何ナル種類ガ考ヘ

ラレルカニ就テ記ス

勿論此ノ産業基地ガ、大東亞建設戦ヒイテハ世界建設戦ニ対スル実施設計ニ  
ノル場合、之ガ単独ニ考、ラレルモノデハナイノハ、産業軍ガ産業経済的ノ意  
味ニ於テ決シテ単独ニ行動スルノデハナク、他ノ政治、文化ノ部門ト聯絡協力  
シツ、建設參謀本部ニ於テ最高世界政策ニ統合サレルト同断デアル。

則チ、斯ル世界政策ヲ実行シテ行ク為ニハ、産業基地以外ニ基地トシテ文化  
基地、政治基地、軍事基地等ガ存在シ、其等ガ其レド、ニ宗教基地、宣伝基地  
・外交基地(連絡基地)、統轄基地、空軍基地、海軍基地等々ニ細分サレルノ  
デアルガ之等全テヲ世界建設戦基地或ハ簡單ニ建設基地ト稱シ、産業基地モ政  
治基地マ文化基地ト並ンデ建設基地ノ最高次ノ一構成要素ヲナスモノデアル。

此ノ産業基地ノ種類ヲ考ヘルニ分類ノ方法ニ數種アル

第一ニ統治形式ニヨリ分類スレバ、直轄基地(国内基地)ト指導基地(国外  
基地)ニ分レル。直轄基地ハ其レガ内地ヲ目標トスルカ外地ヲ目標トスルカ、  
或ヒハ其ノ存在スル位地等ニヨリ内地基地ト外地基地ト別レ、内地基地ハ北部  
東部・中部・西部・南部等ニ分レル。外地基地ハ北方大陸基地・西方大陸基地

・南方大陸基地・西方海洋基地、南方島嶼基地・東方基地等ニ分レル。指導基  
地ハ其ノ存在スル国家マ民族ヲ我國ガ指導シテ、該基地ノ任務ヲ大東亞建設戦  
最高目標ニ有効適確ニ給合セシメルモノデ各國各民族基地ガ存在スル。

第二ニ建設戰的機能ヨリ分類シテ、進攻基地、防衛基地ガ存在シ其レハ、大  
陸トカ島嶼トカ海洋トカニ対シ或ヒハ北方トカ南方トカニ対シテ、各種ノ基地  
例ヘバ西方大陸進攻基地等ガ存在スル。

第三ニ産業機能或ヒハ經濟機能ニ応ジテ、原産基地、生産基地、流通基地、  
消費基地等ニ分類サレ、之ハ更ニ細分サレテ、建造団基地(産業軍建造団駐在  
シ建造団任務、中樞トナルベキ基地)動力基地・農業基地・水産基地・加工基  
地・機械工業基地、化学工業基地等ガ考ヘラレ、一方其等諸産業部門ガ互ヒハ  
結合協業シター大綜合基地モ存在スルノデアル。

最後ニ之ヲ形態的ニ見ルト、ソノ基地ノ拡散度ニヨツテ、粗散基地、集約基  
地ト称セラレルモノガ存在シ得ル。農業基地トカ牧畜基地等ハ其ノ性質上一  
般ニ前者ニ屬シ、工業基地等ハ一般ニ後者ニ屬ス。特ニ地区的綜合企事形態ハ  
典型的ノ集約基地トナル。モシ之ガ国防上ノ必要等カラ或程度分散サレサルヲ



得ナカツタトシラセ、工業基地ハ全体的一体トシテ能クマデ集約的デアラバ  
ナラヌ。

又、化学綜合企業地區ト機械綜合企業地區アルヒハ電力綜合企業等ガ各々集  
約化学工業基地・集約機械工業基地・集約電力工業基地ヲ形成シツ、モ、是等  
ガヨリ複雑ナ形ヲ能クシ協業シテ、ヨリ高次ニ統合サレタ綜合企業形態ヲナシ  
テ行クトキハ、全体ヲ粗散基地ト考ヘルコトナク、能クマデ一体的ナ集約産業  
基地トシテ考ヘラレネバナラナイ。而シテ、之ニ農業基地・水産基地・建設団  
基地・動力基地・加工基地等ガ緊密ニ複雑ニ結合協業シ、資源ト動力ト労力ト  
技術トガ完全ニ無狀ナク能率ヲ發揮シ、而カモ生活環境條件ガ保健厚生文化教  
育ニ快通デアアル如キ産業基地ガ最モ高度ナ基地ノ発達形式トサレル。

是等ヲ簡單ナ模型圖トシテ示セバ別圖ノ如クデアアル。

産業基地ノ簡單ナル模型圖

備考  
コ、ニ示ス模型圖ハ簡單ナルモノニシテ、タダ基地ノ一半ヲ知ルニ役立ツモノトシテ掲ゲルモノデアアル。  
綜合基地ハ之等ガ協業ノ形ヲ複雑ナ向聯ヲ持ツテ結合シタ形トナル。

機能形態	原産基地	生産基地	備考
單式	(a) ; (b) 等		
實例	(石炭) ; (鉄鉱)		
複式	(ab) ; (cd) 等		
實例	(石炭) ; (鉄鉱)		

### 第四章 現國土計画理論ト産業基地

#### 一、基地ト分散理論

現國土計画理論ノ中心概念ハ工業ノ均衡的分散論ニアルモノノ如ク、産業基地ノ概念ハ一見之ト相容レヌ如ク考ヘラレル可能性モアルト思フ故、之ニ就テ少シク述ベテ置ク必要ガアラフ。

今國土計画ニ於ケル均衡理論或ハ分散論ノ起ツタ動機、又ハカ、ル親莫カラノ計画施策ヲ必要トスル理由ヲ考ヘルニ、大略之ヲ次ノニツニ分ケルコトが出来ル。

ソノ第一ハ依テニ於ケル如ク、「アウタルキー」ヲ以テ指導原理ト定メ、世界經濟ノ解体ト、一体トシテノ民族林乙ノ必然性ヲ信ジ、其ノ為ニハ先ツ何ゾ指イラマ国民經濟上ニ於ケル最大ノ資本タル土地ヲ「百パーセント」ニ活用スル必要ニ迫ラレタカラダ。

第二ニハ、国土防衛ノ立場ヨリスルモノデアリ、戦争形式ノ發達ト共ニ空襲

的其地ニ於テ、集約的工業都市ガ環滅シテ、國家全体ノ産業機構ノ中心部ノ毛動ガ停止シ、産業全体ガ危殆ニ瀕スルコトヲ防止スル必要カラデアル。

先ツ第一ノ國土利用ニツイテハ、國家ノ全体の立場ヨリスル計画ニ基イテ、國土ノ各地域各地方ニ賦存スル資源ヲ有効ニ利用シツ、集約サレタ工業地域ニヨツテ其ノ附近ノ物的或ハ人的資源ガ過激ニ使用サレ凋渴ニ瀕スルコトヲ防ギツ、國家計画ニヨツテ資源ノ保有ト育成トヲ計画化スルト共ニ、国土各地域ニ分存スル資源ヲ最モ近距離地域ニ活用セントスルコトガ考ヘラレラレル。

併シ、コノ資源ノ保有トミコトハ均衡的或ハ分散的立地計画ニテミ依存スルモノデナク、カ、ル土地計画の技術ニヨル改変ヨリモ、ヨリ經濟組織ソノモノニ依據シ内在スル問題デアル。即チ、斯ノ如キ資源ノ濫掘凋渴ハ個人主義ニ基ク資本主義生産機構ソノモノニ淵源シ、彼ツテ之ノ改革ハ立地的技術ニヨツテナス以前ニヨリ根本的ノ問題ノ除去ヲ必要トスル。言ヒ換ヘレバ、國家的立場ニ於ケル全体のナ改否經濟的ナ施策ト実行ヨナス事ニ於テノミ為シ遂ゲ得ルノデアル。即チ、資本制利刺又ハ個人的營利ノ追求ヲ目的スル慾意的毛動ヲ否

定シテ、國家計畫ニ基イテ物的資源ノ開發保有ガナサレバナラナイ、  
次ニ人的資源ノ其レニ対シテハ、所謂ル農村或ハ地方ノ余剩勞力ヲ特ニ工業  
方面ニ活用スルコト、人的資源ノ保有育成ノタメニ都下ト農村ノ対立ヲ除去  
シツ、都市ハノ人口過剩集中ニヨル都市ノ衛生・食糧・保健・風紀的環境ノ  
劣悪化ヲ改良再編成セントスルモノデアアル。

農村・地方ノ余剩勞力ノ時局的或ハ季節的又ハ常時的ナ活用ハ、大河内式ナ  
「理研ヒストリソング」ノ工場経営ナドモノ一例デ、カ、ル経営方法ヲ可能  
ナラシメル為ニ技術的作業單位ヲ單純化スル事ハ、此ノ余剩勞力ノ向題ハ別ト  
シテモ今後益々増長サレナケレバナラズ事柄デアアル。

然シ農村・地方ノ余剩勞力ノ常時的ナモノハ勿論、コト季節的或ハ時局的ナ  
何レモハ現在既ニ過剩シテ居リ、今後建設戰ガ進展スルト共ニ益々不足スル事  
ハアツテモ過剩ヲ來ス事ハ有り得ナイ。

滿洲事變以降ノ我國労働市場（以下労働給源ト呼ブ）ハ事及ヲ契機トスル重  
化学工業ハノ産業構成ノ変化ニ伴ヒ異常ナ變化ニ遭遇シ、農村カラ都<sub>中</sub>ノ労働

力ノ大量移入特ニ軍需・時局産業ノ異常ナ膨脹ニヨリ労働給源ハ漸時緊迫ノ  
度ヲ加ヘ來ツタ。商工省工場統計表ニヨレバ、昭和六年末一、百六十六万人デ  
ニツタ工場労働者總數ハ、昭和十二年ニハ二百九十三万人ト約七十六%増加シ  
此ノ中金屬機械器具・化学工業ニ於ケル増加ハ七十六万人デ總增加數ノ約六十  
%ヲ占メ、所謂時局産業労働者ノ全工場労働者ニ對スル割合ハ、昭和六年ノ二  
十二%カラ十二年ノ四十二%ニ増大シテキル。是等ノ増加ハ、昭和七、八年當  
時ニ於テハ、昭和四、五年ノ不況時代ノ失業熟練工又ハ經驗工ニヨリ、昭和九  
年以降ノ夫レハ、斯ル失業若、技術労働者デナイ一般過剩労働者ト人口ノ自然  
増加ニヨツテナサレ、斯クシテ過去ノ過剩労働力ハ大体昭和十一年末マデニ始  
メト吸收サレタト見シレテ居ル。

従ツテ支那事變ハ労働力需給關係ガ既ニ一応ノ自然的飽和矣ニ達シタ時期ニ  
勃發シタモノデアリ、其ノ後ニ於ケル時局産業部門ノ一層ノ膨脹ハ其レガ紡績  
工業等ト異リ、大体ニ於テ応召兵士ト同様ナ壯青年男子ヲ益々吸收シタコトニ  
ヨリ、其等ハ相次ニ農村及ビ地方ニ於ケル男子労働力ヲ過剰セシメル道ヲタト  
ツタ。此ノ事ハ農・水・商業等ノ所謂ル労働給源ニ於ケル男女別労働者別ノ推

後ヲ見ラヒ明ラカデアアル。

(單位千人)

業別	大正九年		昭和五年		昭和十一年(推定)	
	男	女	男	女	男	女
農業	六七〇九	六三三八	七〇三五	六三九六	七七〇〇	六五〇〇
水産業	四九七	三三	五二六	五三	五二〇	六五
商業	三二四	一〇三〇	三四六	一四九九	三七〇〇	一八九〇
合計	一〇四二〇	七四四五	一六八七	七九八	一九六〇	八四五
					二〇三三四	

即チ、農業ニ於テ男子ニ対スル女子ノ労働人口割合が大正九年ノ八十%カラ昭和十一年ノ八十四%ニ、水産業ガ七、五%カラ十二、五%ニ、商業ニ於テ四十%カラ五十%ニ而シテ其等ノ總計ニ於テ七十一%カラ七十三%ニ増加シテ居ル。此ノ女子労働力ノ増加ハ、労働給源タル農・水・商業人口ニ於ケル男子労働力ノ不足ヲ意味シ、女子労働力ノ供出ガソノ自然増加ヲ意味セスシテ逼迫ニダ

労働力不足ヲ表明シテ居ルモノデアアル。此ノ傾向ハ其ノ後益々教化サレテ居ル筈デアリ農村・地方ノ所謂ル余裕労働力ノ存在ハ現在ニ於テハ考ヘ得ナイ事デアアル。

一方今後ニ於ケルモノトシテ土地制度ノ改革ニヨリ容細農耕制ヲ止揚シ一回農地ノ規模ヲ大ニシツ、農業生産ヲ機械化シ、之ニヨツテ、(一)、農村労働力ノ工業ニ転換シ、(二)、季節的余剰労働力ヲ得ルコトガ考ヘラレテキル。

(一)ハ機械化其他ニヨリ農村人口ヲ現在コリ減少シ得ルマモ知レズト云フ事デアスル方法ニヨツテ生ズル分散的ナ農村的ナ労働力ノ捻出ハ農村・地方ニ工業ヲ移転シテ、其等人口ヲ其儘ニ其ノ地ニ定住セシメテ工業人口ハ吸収スル事ハ不可能デアロウ。斯ル余剰人口ハ分村計画等ニ依ル後住ヲ考ヘル事ノ方がヨリ正シイト考ヘラレル。

(二)ニ付テハ、農村機械化ニヨル高度集約的農業經營ハ、勢ヒ機械化農村独特ノ加工食糧品工業例ヘバ製粉・糖詰・製粉工業或ハ工芸的手工業等ノ低次小規模産業ノ兼營發達ヲ必得ナラシメ時間的季節的余剰労働力ハ他工業ノ供出困難ナルノミナラス、(一)ニ於ケル余剰労働力ヲモ之ニ吸収シ、此ノ新インイ管ツテノ

農商人口ヲ其ノ農村・地方ニ相成ラズ定住セシメツ、第三編第五章ニ於テ述バ  
タ家族精神ニ基ク産業機構ヲ確立スルコソ正シク日本の性格ヲ發揮セシメルモ  
ノデアロウ。

次ニ都市ト農村ノ対立ヲ除去シテ、都市ノ衛生・保健・凡能問題ヲ解決スル  
為ニ工業ニヨル人口ノ都市集中ヲ拒否セントスルコトニ就テハ、工業分散論ト  
ハ異ル視てヨリ考ヘラレナケレハナルマイ

都市ト農村トノ対立ハ文化的ナ経済的ナ対立デアリ、ソレハ都市ガ文化的ニ  
経済的ニ農村ヲ搾取スル姿トシテ現ハレテ來タ。概ソテ其レハ、都市ト農村ト  
ノ人口ノ量的ナ差異マソノ密度（人口数ノ、其レガ居住スル地域面積ニ対スル  
割合）ノ中ニ本質的ニ存スルノデナク、資本主義的恩利主義ト自由主義的個人  
主義ニヨル経済・文化ノ考ヘ方ト運言法其ノモノノ中ニ内在スルノデアル。即  
チ「ユダヤ的」経済及ビ「ユダヤ的」文化ノ思想ガ現在ノ如キ都市ヲ形成シタ  
ノデアリ、之ガ又都市ヲ廢爛シ都市ヲ喰物ニシク。

「土地ニ就テハ私的恩利殊ニ投機慾ガ多大ノ害悪ヲ生ジラサル事ハ固知デア  
ル。十九世紀ノ初メカラ益々都會化シテ來タガ、貧民窟ヤ非常口ノナイ建物ノ

不健康ヲ増集ヤ、都市醜惡等ノ發展ヲ防グニ好適ト思ハレル諸條件ヲ確立スル  
ク無教ノ機会ガアソタノダガ、不勞所得増大ノ單奪（即チユダヤ主義）ノ裡ニ  
夫ハレテ了ツタリ。」 (Machiner, Preface to Hegemann's 'Itg. Plan-

ning Hausmit 011)

斯クシテ「ユダヤ的」性格ニ染メ上ゲラレタ都市ハ、自ラ「ユダヤ的」的の压制  
ト搾取ノ主体トナツテ農村ヲ対立物トシテ之ヲ支配シ始メタノデアル。而カモ  
家族制度ト家族精神ノ嚴存スル農村ニハ、カ、ル言葉の消費的ナ対立破壊  
的ナ「ユダヤ」文化・經濟ハ潛入困難ナノミカ、カ、ル農村ニ対シテハ「ユ  
ダヤ」的ナ文化ハ其ノ中ニ自ラ進出スル利潤的興味ヲ持タズ、タハ外部ヨリニ  
「ユダヤ」的ニ經濟的ニ壓迫搾取スル事ノミヨナシテ來タ。ソシア又場合ニヨツテ  
是等文化經濟ノ入ラテ來タ農村ニ於テハ日本民族國家ノ基礎タル家族精神ハ都  
市ト同林ニシテ破壊サレテ來タノデアル。従ツテ文化的經濟的ナ都市農村ノ對  
立ヲ除去スルトイフ事ハ、本質的ニハ文化及ビ經濟ヲ日本のナ立場ニ於テ、再  
編成シテ行リ事ノ中ニ計畫ノ契機ガ存在スルモノデアツテ、分散論的ナ立地長  
術ソノモノ、中ニハ存在シナイ。

之ハ都市ノ凡能向題ニ関シテモ全斷デアル。  
都市ノ人的資源保有育成ニ対シテモ、ソレハ食糧向題ト太陽ノ光線ト清淨ナ  
空氣ノ向題ニ起因スル保險衛生向題ガ主デアリ、之ハ均衡論分散論ト云フヨリ  
モ国土計画ノ一大部分タル都市計画ノ技術的ノ範圍内ニ於ケル向題デアリ又政  
治技術ノ向題デアリ、産業都市ノ人口ノ集中ト云フ量ノ密度ソノモノニ内在  
シ本質シテナルノデハナイ。

尚ホ一言シテ置クガ我々ノ産業基地ハ、過去ノ力、ル人口都市集中ニヨル思  
影響ヲ充余除去スベク、ソノ批判ノ上ニ建設サレルコト勿論デアル。

## 二、基地ト生命線

次ニ第一ノ国土防衛ニ就テハ、我々ハ極メテ積極的ノ考ヘヲ持つ必要ガアル  
ト思フ。国土防衛ノ立場ヨリスル均衡的分散理論ニ就テ其ノ意見ヲ屢ク伺イテ  
ミヨウ

「近代戦ハ空陸一体ノ立体戦デアリ、就中、爆撃機ノ行動半径ハ急速ニ増大

シツ、アツテ、ヤガテ空軍基地カラ出發シテ無着陸テ世界ノ隅カラ隅マデヲ爆  
撃スル事モ必ズシモ肉人ノ夢デナクナツタ。大都市ニ工業ヲ集中スルコトハ戰  
時ニ於ケル空爆ノ被害ヲ甚大トスルノミナラズ、経済ノ中絶機能ヲ破壊スル事  
ニ依ツテ國民經濟ヲ大混乱ニ導キマカテ經濟的敗戦ノ機ヲ早メル。依ツテ空  
爆ヨリ生ズル被害ヲ極力分散スル為少クトモ軍需工業ハ出來得ル限り都市集中  
ヲ抑制シテ地方ニ分散スルコトガ望マシイ。独・ソ・佛等ノ一流空軍國ガ最近  
軍需工場ヲ国境地帯カラ国土ノ中央ニ分散移転シツ、アルノハ、一ニ国防上ノ  
考慮カラ出テ居ル。」(東亞經濟要覽ヨリ)

独・佛ノ如ク歐洲ニ於テ国境ヲ接近シテ居ル所デハ斯ル觀矣モ一應首肯出來  
ル。然シ我國ハ四方海ヲメグラス事ト、皇軍ノ戰鬥精神及作戰方策ガ極メテ積  
極的デアル事ニヨリ事情ハ可成リ異ル。勿論国土防衛ニ対スル細心ノ注意ハ必  
要デアアルガ我空軍ノカモ信頼サレネバナラス。而カモ、今後ノ航空機ノ行動半  
徑ノ異常ナ増大ヲ信ズルナラバ、空軍作戰形式ノ異常ナ発達ニヨリ、大都市ノ  
ミノ密集的空爆バカリデナク国土全体ガ分散的ニ爆撃ヲ受ケル如キ攻撃戦法ガ  
強化サレル事モ考ヘラレル。

眞ノ防空ハ一都市ノ防衛デナク全テノ文化・經濟・政治的集團地域間ノ動線  
 (鉄道・水路・通信路等)ヲ防衛確保スルコトデアリ、例ヘバ京浜工業地帯ノ  
 工場ヲ粗散シタリ或ハ各地域ニ「自足的ミミズ経営形態」ヲ確立シテモ其ノ向  
 フ繋グ動線ハ複雑コスレ簡單トハナラナイ。「自足的ミミズ経営形態」ノ確  
 立モ国土防衛ノミカラデナク、資源ト生産ト消費トヨリ地域的ニ緊密ニ結ビ  
 ツケ動線ノ輻輳化ト其レニヨル動線ノ活動上ノ損失ヲ減少スルコトカラ考ヘラ  
 レルベキデアル。

而カモ、コノ「ミミズ」經濟的觀念ニヨル「應」ノ地域的自足國ノ確立ハマハ  
 リソノ内部ニ於テハ集約地ト粗散地ノ結合シタモノト成ラザル限リ、高度ヲ綜  
 合企業的能率ハ發揮出来ズ、ヨリ高度ニ集約サレタカ、ル地域的自足國全体ソ  
 ノモノガ又我々ノ産業基地ヲ形成スルノデアアル。

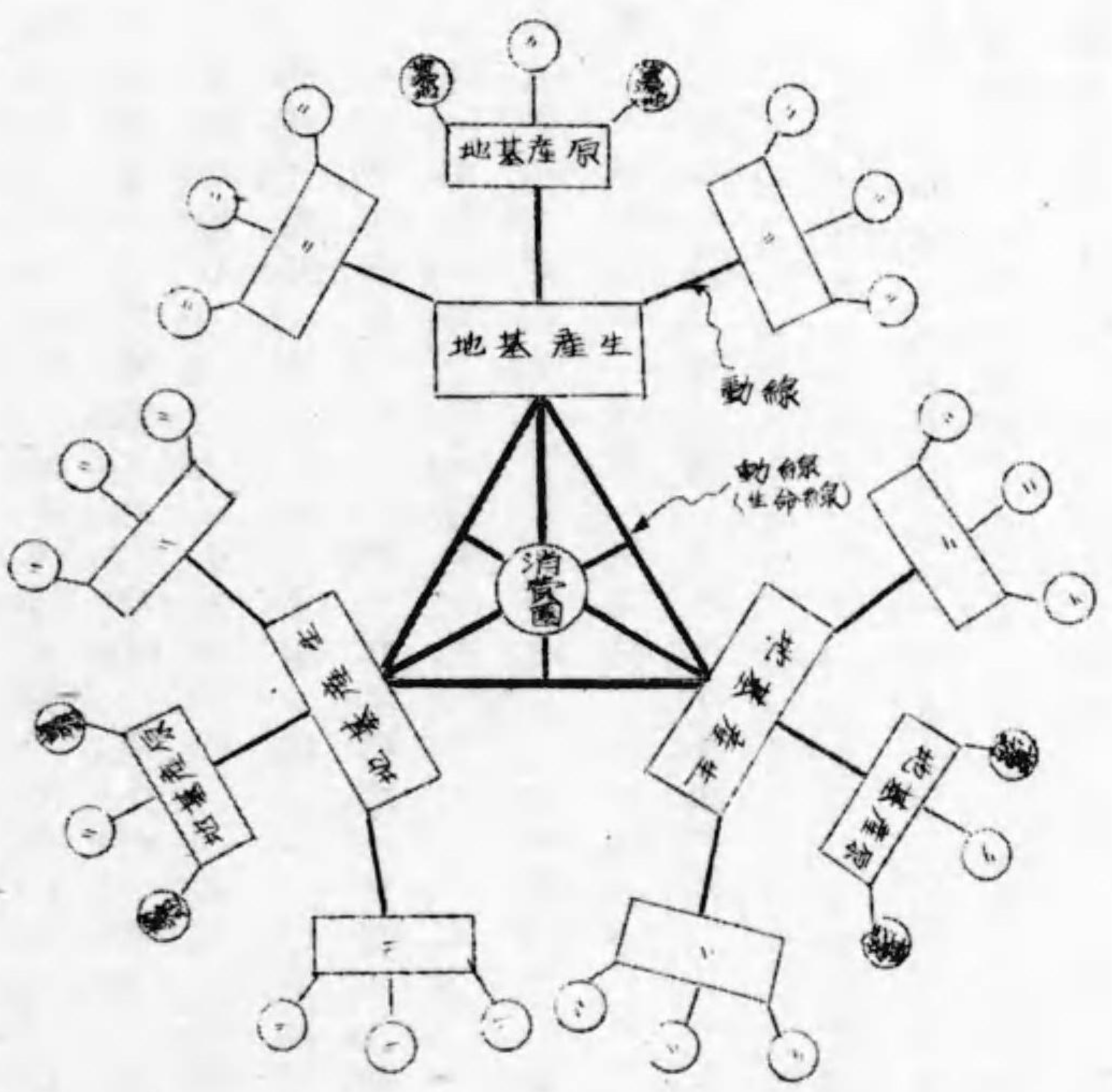
ソノ上今後アノ大ナ地域ガ大東亞圖トシテ我日本ノ主導下ニ建設サレテ表  
 ルト、帝國ハ自ラノ独自ノ立場ニ於テ大東亞防衛トソレヨリノ進攻ノ為必要地  
 矣ニ軍事基地ヲ設置スルモノデアリ、斯クスレバ我々ノ国土(大東亞圖全域)  
 ハ恐ラク大ナモノトナリ、ソノ内部ノ陸地塊例ヘバ「フィリッピン」トカ、

「ホルネオ」トカ「パアア」トカ或ハ支那本部等ニ於テ、独、佛的分散論ヨリ  
 スル国土防衛法ヲ実行シヨウトスルノハ直訳的ノ誹リヲマヌカレマイ。

我々ノ國境(第一生命線)ハ其等島々或ハ陸地ノ幾千料カ彼方ニ在ルノデア  
 ル。ソシテ又其等ノ多数ノ島々ノ一ツ一ツガ又一ツノ「ミミズ」經濟的自足國  
 ヲ一應形成シツツ、其等ハ航路ニヨツテ互ニ緊密ニ結バレ、主導国日本ニ強國  
 ニ統合的ニ集結サレル。海洋國家ニトツテ此ノ航路動線こそ眞ノ生命線デアリ  
 コノ生命線確保こそ海洋國家ノ眞ノ国土防衛デアロウ

此ノ動線ハ一層毛細管的ニ資源域カラ開發基地へ、開發基地ヨリ生産基地へ  
 生産基地カラ消費圈へト整然サレ、鉄道・航路ハ之ヲ結グモノデアリ、船モ  
 ソノ往復スル基地間ノ荷物ノ量、質ニ應ジテ大キサ種類ガ考ヘラレネバナラヌ。

産業基地ノ構成図



此ノ動線ヲ防衛スルコトが大キイ国土防衛ノ任務デアリ、大東亞圖ノ北方基地ト南方基地ヲ結ブモノ或ハ南方ト西方トノ基地ヲ結ブモノ等ガ我ガ生命線ヲ形成スルモノデアリ、国土防衛モ之等生命線ヲ確保スル所ニ重大ナ任務ガアル。国土防衛ニ対スル徠佛的分散理論ト云ヒ、或ハ攻メルヨリモ隱遁スル防空濊的思潮ト云ヒ、余リニモ消極的退却的ナ思想デアアルマイカ。我々ハ斯ル思想ノ益々弥漫スルコトヲ恐レテ取急ギ以上ノ事ヲ記スノデアアル。

我々ハコノ国土ヲ寸土タリトテ敵ノ天下ニユダネテハナラヌノデアアル。ソレハ單ニ我々ノ信念デナク実践ナノデアアル。ソレハ極メテ高イ「必勝」ノ信念ニ生キ抜クコトデアアル。大東亞建設戰ハ、産業技術人ハノミナラズ政治家ニモ學者ニモ文化人ハモ、全テ此ノ大君ノ御楯タルベキ最強ノ姿ニ生キ抜クコトヲ要請シテヤル。

日本民族ノ持ツ国土防衛精神ハ守勢デハナイ、高イ攻撃精神ノ実践ノ中ニ在ル。斯ル積極精神コソ我産業ヲ或ハ国土計画ヲ、質的ニ量的ニ世界的水準ヨリ超越セシメ、此ノ精神コソ又我ガ空軍石皇軍ヲシテ世界最高最強ノモノタラシメタモノ、一ツデアアルマイカ。



我々ハ大東亜ノ統合回土計画ニ対シテ極メテ積極的精神ヲ堅持スベキコトヲ再々強調スル。

大東亜ハ次ニテ現在ノ圏域内ニ止マラントスルモノニ非ズ。畏多クモ伊勢入神宮ハ二十年毎ニ新シクノ御造営ナサレルノデアアル。ソレハ石砌デ作ラレヤガラ「ローマ」ノ廢趾トナル如キ無生物的精神ヲ姿ヲ断ジテ意味シナイ。世々新ラシイ姿ト精神トガ生キノト民族ノ血ニ受ケ嗣ガレ行ク發展ノ姿デア

ル。發展ハ生アルモノノ本然ノ姿デアリ、ソレハ又我國ノ姿ト精神ソノモノデア

ル。彼等ノ文化ガ鉱物的文化ト云ハレ、我々ノ文化ガ植物的文化ト称サレル所以モコ、ニ在ル。

大東亜●生命アルモノトシテ永遠ニ發展シ、ソノ精神ト肉体トハ世々發展拡大シテ止ル所ハナイノデアアル。我々ノ國境ハ常ニ幾千料ノ彼方ニタガヨツテ中

ル。ソレハ生キタモノトシテ發展シテ行キ拡大シテ止マルコトハナイデアロウ。我々ハ重ねテ言フ「コノ積極的ニシテ發展ノ精神コソ、我々ノ新シイ世界ノ創造ト建設、ノ眞実ノ契機デアルト」。

# 結語 統合理論

我々ハ以上ノ概略的ナ考察ニヨツテ、生産技術部門ヲ國家最高ノ目標即チ世界建設戰完遂ト云フ目標ニ向ツテ統合セント試ミ、ソノ考察ガ現実ニハ如何ナル姿ヲ現シテ來ルニカ就テ一ツノ提唱ヲナシタ。

則チ、我々ハ世界ノ情勢ガ世界建設戰ノ段階ニ入ルコトヲ、即カモ其レガ止ムニ止マレヌカノ動キトシテ斯クナルブアラウトスア事ヲ述ベタ。ソノ段階ニ於テ、我國ガ最高最強最大ノ大東亞國ヲ率イテ世界ニ對シ主導的立場ヲ持ツベキハ、軍ニ我々ノ自我的希求トシテハナク、其レハ世界諸民族諸國家ヲ眞ニ救フモノトシテ世界史的使命ノ以テ要請サレテキルコトヲ見タ。

其レハ我民族國家ノ団體ガ崇高ナモノデアリ其ノ理想ガ雄軍仁優デアルト云フコトノミナラス、我民族ノ精神ヤ生活ノ在リ方ヤ思考ト行動ノ現ハレ方等コソ世界ヲ主導スルニ最モフサワシイト云フ事ノ為デモアル。

而カモ、我々がハツキリト之ヲ斷言シ又現實ニ認メ得ルノハ、我民族國家ガ極メテ高い權威ヲ中心トシテ形成サレテキルカラニ外ナラナイ。權威トハ民族ノ生活ノ秩序デアアル。權威トハ民族ノ精神ノ在リ方デアアル。ソレハ限リナク、

民族ノ祖先ニサカノホリ民族ノ精神ヲ嗣グモノデアリ、限りナクマタ民族ノ未  
來ニ向ツテソノ现实生活ヲ維新シ建設シ創造スルモノデアリ。

ソレハ民族ノアズハノ及省デアリ、民族ノアズハノ創造デアリ。ソコニハ如何  
ナル独断モナイ。聊カノ強制モナク何ラノ支配モナイ。ソレハ全一ノ指向デ  
アリ指標デアリ指導デアリ。此ノ權威ハ至尊至高デアリ。如何ナルモノトモ  
絶対ニ冒スコトハ出来ナイ。ソレハ如何ナル時モ我民族誰レモノ心ノ中ニ嚴行  
スルノミカ、現在トシテ過去カラ現在、現在ヨリ未來ヘト連續發展スル民  
族ノ生命ノ实体トシテ嚴存スル。『マツリ』ト『マツリゴト』トヲ現実的ニ統  
合スル至尊至高ノ存在。ソノ權威ノ本質コソ、受け継がレユク精神。一萬邦  
共済・ハ絃為宇ノ大理想デアリ。

此ノ權威ノモト、此ノ大理想ノ下ニコソ我民族ハ生キテ來タ。此ノ故ニコソ  
此ノ大理想具現ニ生命ノ道ヲ求メル以外、我々日本国民ニトツテ眞ニ偉大ナル  
生ノ充實ハアリ得ナイノデアリ。此ノ大理想具現ニノミ向ツテ、我々個人ノ、  
或ヒハ団体ノ、ソシテ又民族トシテノ生活ノ有リヨツガ統合サレテコソ、聖業  
眞實ノ文字ハ現実ノ実践トナル。

シカモ、世界ガ建設戰的過程ニ入ラントスル時、コノ実践ノ道ハ、タダニ大  
東亞ヲシテ、世界最高最強最大ノ存在タラシメル以外ニハナイノデアリ。カク  
シテコソ、大理想具現ノ現実ノ地盤ハ基カレルノデアリ。軍事モ、政治モ、經  
済モ、文化モ、コノ目標ノ下ニノミ統合サレ、其ノ構想ト作戰トガ実行サレテ  
コソ、我々日本臣民トシテノ生ハ充實シ全ウサレル。

軍事ニ於テハ、既ニソレハ為サレ、為サレツツアルノデハナイカ。我々ハ、  
政治ニ、經濟ニ、文化ニ、一日モ早ク此ノ構想ト作戰トガ実行サレ戦果ノ答ゲ  
ラレルコトニ努力シタイト考ヘタ。ソシテ一ツノ構想ヲ描キ、經濟ノ分野ヘト  
之ヲ壓縮シ、産業技術ノ面ガ如何ニ此ノ目標ニ統合サレルニキカニ就テ一ツノ  
振唱ヲナシタノデアリ。

我々ハ、有形無形ノ實在ハ全テ統合サレルニキ対象トシテ存在シ得ルト主張  
スル。統合サレ得ザル實在ハタダ一ツ。此ノ至尊至高ノ權威アルノミデアリ大  
理想アルノミデアリ。ソレハ最高ノ統合ノ主体デアリ至高ノ統合ノ精神デアリ  
アラユルモノハ窮局ニ於テ此ノ唯一ノ主体ノ下ニ統合サレ、唯一ノコノ精神ノ  
モトニ統合サレルノデアリ、サレ得ルノデアリ。

統合トハ、全体ノ態度デアル。全体ノ生き方ノ情愛デアリ努力デアル。然シソレハ個ト個ノ集積トシテノ全体デハナイ。全体ヲ一ツノ在リ方トシテ認識スル態度デアル。個ガ全体ヘ結合サレルノデアル。個ガ全体ノ秩序ノ中ニ在リ、ソノ秩序ヘト参加スルノデアル。

ケレドモ統合トハ單ナル綜合デハナイ。個ノ立場ガ全ノ立場カラスル圧迫ヲ受ケ、個ノ生命ガ全体ノ生命カラ脅威ヲ受ケル事ハ毫末モアルベキモノデハナイ。個ハ個トシテノ立場ヲ持チ、アクマデモ個トシテノ生命ヲ創造シテ行クノデアル。個ガ全体ニ否定サレルノデハナイ。トイツテ、勿論個ト全体トガ同一水平面上ニ於テ競争スルモノデナク、ソノ認識價值ヲ争フモノデハナイ。個ハドコマデモ個トシテノ自ラノ生命ヲ創造シツ、全体ノ秩序ノ中ニ在リ之ニ参加スルノデアル。互ヒニ脅威ナク全一體的ナ在リ方ニ結合サレルノデアル。

コ、ニコソ統合ノ主体トシテノ權威ノ存在ガアル。而カモ此ノ權威ハ個ヲ支配シ全体ノ外ニ立ツテ居ルモノデハナイ。個ノ中ニモ生き、而カモ個ノ中ニモ此ノ權威ニ生キントスル全一體的ナ實在デアル。カカル意味デ其レハ全体ノ中ニ在リナガラ全体ヲ統べるモノトシテ至高ノ精神ヲ堅持スルモノデアアル。ソレ

ハ個ト全体トノ全一的ナ在リ方ヘノ無言ノ限りナキ情愛デアリ不滅ノ努力デア  
ル。

カ、ル在リ方ヲ、我々ハ統合ト言フ言葉ヲモツテ呼ビタイノデアアル。連綿々  
ル至尊ノ団体ノモトニ至高ノ理想ヲ戴イテ生キ得ル日本民族ニコソ、此ノ統合  
ノ理論ハ最も直截ニ理解サレ体得サレルノデハアルマイカ。我々ハタバニ、  
陛下ノ臣民トシテ、或ハ民族ノ一員トシテ斯ル姿ノ中ニ其ノ生ヲ送ルダケデナ  
ク、学問ノ世界ニ、技術ノ世界ニ、進んでコノ理論ヲ生カシテコソ其等ヲ眞ニ  
創造的ニ發展セシメ、我が文化ヲ世界ニ宣揚シ得ルノデハアルマイカ。

我々ハ学問ノ領域ニ於テ、凡ユル学問ガ各々独自ノ立場ニ於テ其ノ専門的深  
化ト發展トヲ圖リソ、国家最高ノ目標ニ統合サレルコトヲ国防統合科学ノ確  
立ト称シ、其ノ実行サレンコトヲ望ンダ。ソレハ学問トシテ最高ノ統合形式ノ  
一デ、モアロウ。我々ハ学問ノヨリ低次ノ統合トシテ地政学或ヒハ地経済学  
等ヲ知ツテキル。

又我々ハ、政策技術ノ一トシテノ統合国土建設計画ニツイテモ記シタ。是等  
ハ全テ体系トシテノ学問ノ分野ニ属スルモノデアラウ。然シ我々ハ此ノ外ニ多

クノ統合サレルベキモノヲ持ツテ居ル。

例へバ、重工業主義生産ノ問題ニツイテ、或ハ生産ノ現場技術ニ就イテモ、此ノ統合理論ニヨツテ明確ニ判断サレル多クノ問題ガアル。

我々が皇國ニ生ヲ享ケル限り、而シテ其レヲ自覚シ体得スル限り、此ノ理論ニヨツテ処理サレ実行サレナイ問題ガアリ得ルデアラワカ。我々全テガ、至尊至高ノ権威ニ直接ニツナガルトキ、支配モ压迫モ対立モナイ。個ハスベテ全一ニシテ一ノ精神ノモトニ統合サレル。

此ノ最高ノ権威ニ直接ツナガルベク個ヲ編成シ配置スル所ニ我民族独特ノ日本的人格ニヨル組織技術ガアル。個ガ此ノ権威ト其ノ精神トヲ体得シ、個ガ全一體的個トシテ自ラツ高メ創造シツ、此ノ技術ニヨル統合ニ進シテ参加スル時我民族ハ初メテ其ノ生ヲ充実シ全クナルノデアアル。カクテ我々ハ産業軍或ハ建設軍ノ組織ヲ提唱シタ。

御秩威ノ下、皇國ニ生ケルコトニ思ヒテ致シ、我々ハ先づ一個ノ国民デアアルマヘニ國家ノ兵士トシテ存在スベキヲ深く自覚セネバナラヌ。聖壽万歳ヲニ唱シテ歡喜シテ死ニツキウル皇軍ノ將兵ノ姿ニコソ、最モ高メラレタ日本民族ノ

生ノ充実が見出サレルノデハナイカ。

此ノ最高ノ生ノ充実が実現サレル時ニソシ、我民族ハ最大ノ能力ヲ發揮シ得ルノデアアル。政治モ經濟モ文化モ、殊ク此ノ一矢ニ統合サレルコトヲ望ムコト切デアアル。

カケテコソ、大東亞ノ建設ヒイテハ世界皇國ノ建設ハ強力ニ遂行サレ得ルモノト確信ス。

419  
401

建設戰ノ構想ト對策

昭和十七年六月一日印刷  
昭和十七年六月五日發行

著者兼  
發行者

麹町区五番町七ノ一  
久保田琢一

印刷者

麹町区九段四ノ三ノ三  
修文社

仲作藏

電話九段四八一七(呼)

終

